

第 2 章

研 究

さまざまな分野のエキスパートが集まる「高等研究所」となることを目指し、高い水準の研究を世に出すことを目的とした先端研は、そのために不断の人材確保の努力と最新の研究分野の開拓、組織・制度的な改革とを常に行ってきた。4つのモットーのうち「流動性」は、常に最先端であるための理念であり、同時に実践を示している。その実践の結果が、絶え間ない研究組織・分野の見直し、10年任期制、特任教員制度などであり、これらはまさに、既存の大学組織から見て最も「尖端」である先端研のイメージを形作ってきたものである。

また先端研は、国立大学の附置研究所として最も早く寄付研究部門を開設し、その後の大学の産学連携への流れを作るなど、全国の国立大学の先頭を切って行動を起こしている。当時としては尖がっていた活動も、いつしかスタンダードなものとなり、むしろ先端研の名前を高める結果になった。

この尖端を目指しての弛まぬ努力により、先端研は常に学際的な研究者構成を保ち、その卓越した研究成果によって常に注目されている。スーパーCOEに選定されたことは、先端研の日常のパフォーマンスが評価されてのことであり、各研究者の受賞・表彰の多さにも、それが表れている。

本章では、20年の先端研における研究を、研究組織（第1節）、研究者（第2節）、寄付研究部門（第3節）、スーパーCOE（第4節）、受賞・表彰（第5節）、図書室（第6節）という各側面からまとめていく。

第1節 研究組織

1. 研究組織体制の理念と仕組み

先端研の4つのモットーのうち、研究組織体制に深く関わるのは「学際性」と「流動性」である。学際性は先端研の研究分野、研究の内容を規定し、流動性は体制の更新を要求する理念、それを実現する仕組みとして機能する。

先端科学技術研究センターは、その名称が示すとおり基本的には工学系の研究組織である。しかし科学技術そのものは社会と密接に関係するものであり、したがってここで行われる研究も、科学技術と社会をつなぐものが必要とされる。初期のころに、科学哲学の村上陽一郎教授（後にセンター長）を招聘したのも、そのような理由からである。このように先端研では、単に工学的見地から科学技術を研究するだけでなく、学際性というモットーのもと、いわゆる文系の研究者や理系の中でも多様な分野の研究者を集めることにより、異分野間の交流を促し、新たな領域を開拓しようと試みてきたのである。

また設立当初、先端研は全ての研究分野に関して設置後10年以内に継続すべきか見直しをするという内規を定めていた¹⁾。このことに象徴されるように、常に最新の研究動向に対応して機動的に研究体制を変えろという、明確なスタンスを先端研は有していた。これは、講座制に象徴される既存の研究組織体制に対するアンチテーゼであり、したがって流動性は先端研の存在理由の重要な構成要素ともなっているのである。

この学際性、流動性に示される理念を実現するためには、研究分野のみならず研究者も変える必要がある。流動性とは、研究分野、組織の流動性であると同時に、人の流動性でもある。10年任期制や還流人事は、新しい研究領域の研究者を既存の分野にとらわれずに採用するための仕組みとして機能する。これにより、先端研における研究を澁みなくし、学際的多様性を確保することが可能となり、「先端」という言葉に偽りのない組織とすることが可能となる。

では実際に、先端研の研究組織体制は、どのように変化してきたのか。次の項で確認する。なお、10年任期制や還流人事など、人に関する制度については第2節に譲る。

2. 研究組織体制の変遷

ここでは、先端研の研究組織体制の変遷を概観する。後掲の資料2-1-1、資料2-1-2、資料2-1-3、資料2-1-4を参照されたい。

1) 1987年12月15日施行「東京大学先端科学技術研究センターにおける大部門及び分野の見直しに関する内規」。資料145参照。

1987年の設立当初、先端研は先端材料、先端デバイス、先端システム、社会・科学技術関連の4つの大部門、7つの基幹分野により構成されていた。88年4月の拡充の際に19基幹分野となり、フルサイズの研究センターとなる。その後、92年4月1日に、分野見直し内規に基づく初めての見直しが行われ、ロボティクス材料分野と耐環境材料分野が統合されて高信頼性材料分野となり、地球環境物質科学分野が新設される。この際、地球環境物質科学分野の新任教授は当時の東大としては珍しく全国公募で募集している。同年4月10日には先端学際工学専攻が設置され、4大部門18基幹分野に3基幹講座が加わる陣容となる。94年には分野見直しによる名称変更が3基幹分野1基幹講座で行われ、96年4月にも2基幹分野の名称が変更される。96年7月には国際・産学共同研究センターが設立され、先端研からは3人の教員が派遣される。97年4月には知的財産権大部門が設置され、5大部門21基幹分野となる。

先端研の研究組織体制が大きく変動するのは99年4月で、このとき先端経済工学研究センターが設立されるとともに、大部門が研究戦略・社会システム、物質デバイス、情報システム、生命、知的財産権の5つに再編される。この結果、先端研は5大部門22基幹分野の組織となる。知的財産権大部門の設置後すぐに改組が行われたことになるが、本来、知的財産権大部門の前に生命大部門の設置を柱とする改組が予定されていたようである。しかし学内の諸般の事情により生命大部門の設置を遅らせ、先に知的財産権大部門設置の概算要求を通したというのが真相のようである。

この5大部門を中心とした組織体制は2004年の法人化まで続く。ただしこの期間に、スーパーCOEによるオープンラボ・プロジェクトが始まり、先端研の研究組織は旧来の研究組織の外側に大きく広がることとなる。これに関しては本章第4節で詳しく取り上げる。

その後、国立大学法人化を契機として大部門制は廃止され、研究者クラスター制がスタートする。研究者クラスター制は、従来の講座制的な教授、助教授、助手等の大ユニットではなく、教授もしくは助教授を中心とする小ユニットにより研究室を構成し、各ユニットはゆるやかに連携ないし関連するという組織体制である。つまり従来のピラミッド型の講座制的研究室をフラット化したのが研究者クラスター制である。還流分野を中心に講座制の研究室は残っているものの、特に外部から研究者を招聘する場合には小ユニットが基本となり、オープンラボ後継プロジェクトなどを通じ、研究者、研究室がゆるやかに機動的に連携するという体制が常態となりつつある。

研究者クラスターは、資料2-1-3、資料2-1-4のような、「研究者マップ」によって視覚的に位置づけ、分野間の距離がわかるようになっている。

3. 資 料

ここに掲載する資料は、先端研設立当初から現在に至るまでの分野の変遷を示したものである。大部門制が廃止される前の資料2-1-1、資料2-1-2では、設置分野の教授の氏名と交代の時期を示している。併任の場合も記載し、併任も含めて担当教授がいない場合には※印を付している。大部門制廃止以降は、クラスター制により分野が固定されなくなったため、チャート表を作成する意味はない。参考までに、現時点で入手可能な2004年度と2006年度の研究者マップを掲載した（資料2-1-3、資料2-1-4）。

資料2-1-1 先端研研究組織・教授変遷表（1999年3月まで）

1987年度	1988年度	1989年度	1990年度
87年5月21日 先端研創立。4大部門に7基幹分 設置される。	88年4月1日 19基幹分野に拡充		
先端材料大部門		9/1	4/1
化学認識機能材料	柳田 博明		
フォトニクス材料	伊藤 良一		
耐環境材料	木原 淳二	山本 良一	
	分子情報機能材料	三田 達	二木 鋭雄
	ロボティクス材料	岸 輝雄	
先端デバイス大部門		10/16	4/1
光デバイス	大越 孝敬		
生体計測	古川 俊之	藤正 巖	
	高速電子機能デバイス	東口 實	岡部 洋一
	極小デバイス	榊 裕之	
	物理情報変換デバイス	石井 泰	
	バイオセンサー	軽部 征夫	
システム大部門			
都市環境システム	伊藤 滋		
	バイオメカニクス	谷田 好通	
	巨大システム	平田 賢	
	知識処理・伝達システム	大須賀 節雄	
	ファクトリーオートメーション	木村 文彦	
社会・科学技術相関大部門		11/1	
科学技術産業相関	竹内 啓		
	情報技術社会相関	※	廣松 毅
	科学技術倫理	村上 陽一郎	

※ 担当教授不在分野

1991年度		1992年度		1993年度	
92年4月1日 初の分野見直し。2分野を統合し1分野にし、1分野を新設		92年4月10日 先端学際工学専攻（3基幹講の設置。先端研は18基幹分野に）			
9/1	4/1	10/1	93/1/1		
氏平 祐輔					
白木 靖寛					
→ 高信頼性材料 岸 輝雄					
新設	地球環境物質科学 山本 良一	※	秋元 肇		
4/1		4/1	6/16		
		※	保立 和夫		
館 暲					
4/1	10/1	4/1	93/1/1		
小出 治	河内 啓二	花木 啓祐			
佐藤 和正					
吉川 弘之	※				
		93/1/1	10/1	12/1	
	※	村上 陽一郎	※	村上	
先端学際工学専攻 → 知能工学 大須賀 節雄 インテリジェント材料学 柳田 博明 科学技術論・科学技術政策 村上 陽一郎					

[illegible]

[illegible]

2-1-2 先端研研究組織・教授変遷表（1999年4月～2004年3月）

1999年度	2000年度	2001年度	
99年4月1日 大部門を改組（5大部門22基幹分野）。 経済工学研究センター設立。			
研究戦略・社会システム大部門	4/1	4/16	9/1 4/1
情報文化社会 ※		藤井 真理子	伊藤 隆敏
資源・エネルギー・環境政策 ※		渡部 俊也	
生命・情報ネットワーク 井街 宏	※	油谷 浩幸	※
物質デバイス大部門	4/1	4/1	
化学認識機能材料 橋本 和仁			
フォトンクス材料 白木 靖寛		宮野 健次郎	
高信頼性材料 岸 輝雄	相澤 龍彦		
光デバイス 菊池 和朗			
極小デバイス 荒川 泰彦			
地球環境物質科学 秋元 肇	近藤 豊		
情報システム大部門	7/1		4/1
情報デバイス 岡部 洋一			中野 義昭
情報物理システム 南谷 崇			
都市環境システム 大西 隆			
生命知能システム 佐藤 知正	廣瀬 通孝		
微小製造科学 須賀 唯知			
生命大部門	4/1		4/1
生命反応化学 二木 鋭雄	小宮山 眞		
バイオメカニクス 河内 啓二			
生体機能工学 軽部 征夫			
分子生物医学 児玉 龍彦			浜窪 隆雄
人工生体機構 ※			
知的財産権大部門			
科学技術財産法 玉井 克哉			
科学技術開発法 大淵 哲也			
先端生命工学 ロバート W. ケネラー			
先端学際工学専攻	10/16	4/1	
知能工学 堀 浩一			
科学技術論・科学技術政策 ※	橋本 毅彦		
インテリジェント材料学 工藤 徹一		藤嶋 昭	
国際・産学共同研究センター			4/1
先端生体医用工学・生命科学 満洲 邦彦			
生体機能工学 軽部 征夫			
応用情報工学 安田 浩			
			高信頼性材料
			ゲノムサイエンス
先端経済工学研究センター	4/1	01/3/1	4/1 7/1 11/1
経済工学 野口 悠紀雄	※		後藤 晃
先端金融工学 伏見 正則	※	藤井 真理子	
先端産業創出戦略 児玉 文雄			
次世代電子商取引 ※			馬場 靖憲

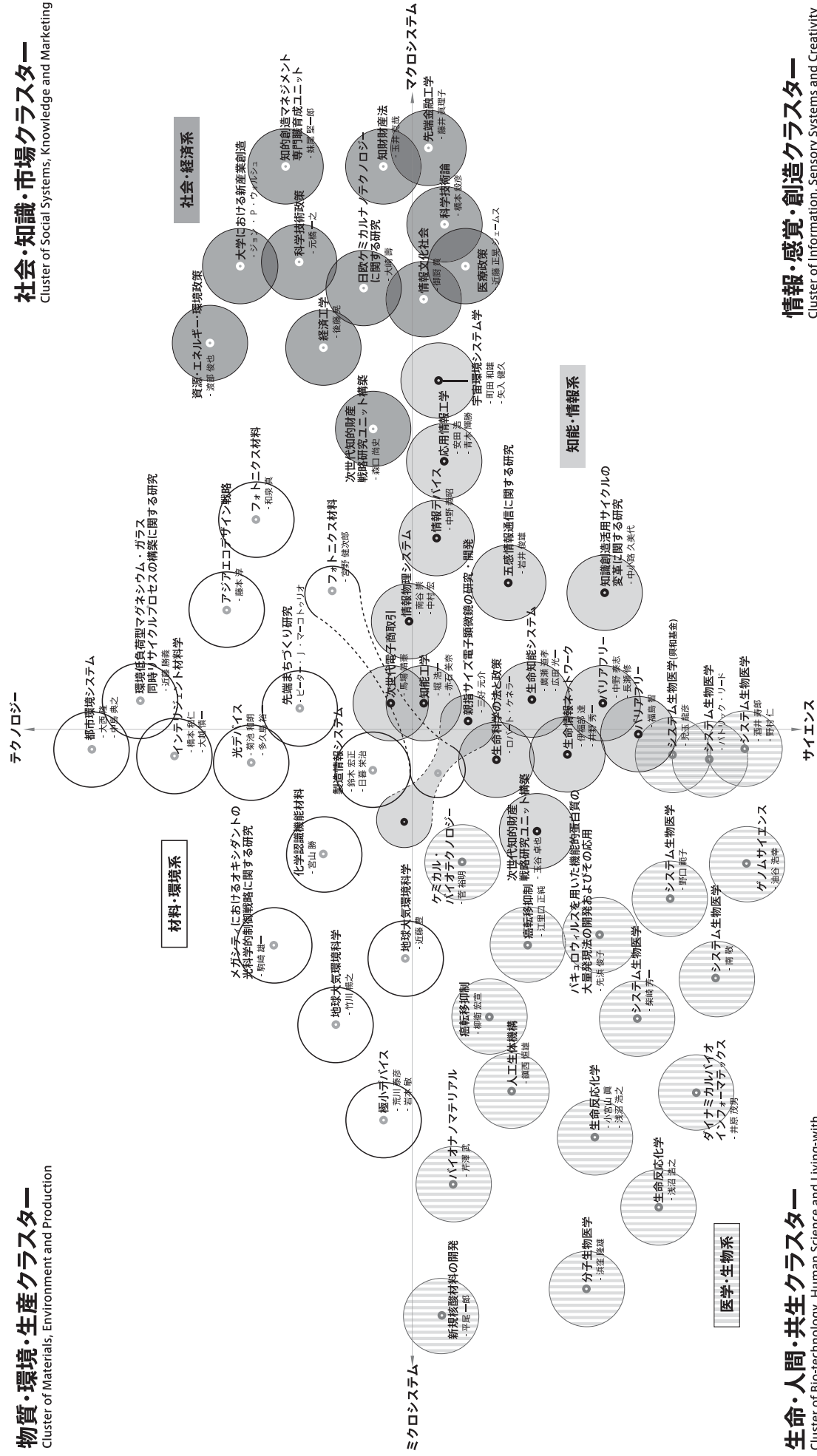
2002年度	2003年度
7/1	
伊福部 達	
9/1	2/1
宇宙環境システム学 町田 和雄	鈴木 宏正
12/16	
御厨 貴 (分野名なし)	5/1
	※
相澤 龍彦	
4/1	
御厨 貴	

物質・環境・生産クラスター

Cluster of Materials, Environment and Production

社会・知識・市場クワスター

Cluster of Social Systems, Knowledge and Marketing



生命・人間・共生・クラスター

Cluster of Bio-technology, Human Science and Living-with

情報・感覚・創造クラスター

Cluster of Information, Sensory Systems and Creativity

資料 2-1-4 研究者マップ (2006年6月末現在)

2006 年6月末現在



第2節 研究者

先端研は研究の質を維持するために、特徴的な人事制度を採用している。本節では、人事上のモットーとなっている「流動性」についてまず説明した上で、還流人事、招聘人事、客員教員、特任教員制度、基金教授制度の順に先端研の特徴的な人事制度の歴史を概観する。その後、先端研所属の交付金教員、交付金助手・助教、客員教員、特任教員のリストを掲載する。

1. 流動性

流動性

(先端研ウェブサイト「先端研設立の理念・モットー」より)

企業、行政機関、教育機関を問わず、組織の革新を図る上での障害は、長年にわたり同一の仕事に従事していると陥りがちな惰性と変革への無関心である。常に新鮮な思考と先見性にあふれた組織運営を進めるために、先端研は全ての構成員に比較的短期間の任期を課していて、学内の他の部局はもとより学外の諸機関から広く人材を募っている。先端研の教員はまた、大学院先端学際工学専攻、国際・産学共同研究センター所属の分野の中で、先端研と一体運営がなされている分野とも人事の交流を図っている。

先端研組織内の各レベルの流動性を確保するために、全ての教授会構成員には最長で10年の任期が設定されている。また、研究テーマ、さらには分野そのものも定期的に各分野の専門家によってその存在価値が大局的に評価され、その存続の適否が決定される。

先端研設立以来10年余において、大部門の改組と共に既に約10分野でその名称が変更され、ほとんどすべての基幹分野において、あらたな教授が着任した。

4つのモットーのひとつである「流動性」について、先端研は上記のように説明している。ここに示されるように、先端研における研究と組織運営を常に新鮮なものとするために、流動性というモットーは機能している。これにより、最先端の研究内容、研究者を確保し、先端研はその名に相応しい研究組織として20年間存続してきたのである。

この流動性は、単なる理念に留まらず、最長10年とする教員の任期の設定、10年以内に見直すという大部門・分野の見直しの内規（第1章第4節資料1-4-5参照）など、現実の運営を規定しているということも、上記の説明に示されている。ただし、全てが硬直化していた、旧来の大学システムにおいては、流動性の理念を実行するだけでも非常に難しかったはずである。次項では、どのような工夫により、先端研が流動性のモットーを現実のものとしたのか、確認する。なお、先端研の教員のリストは、6. の資料2-2-1（交付金教員）、資料2-2-2（交付金助手・助教）、資料2-2-3（客員教員）、資料2-2-4（特任教員）を参照されたい。これ以外に、寄付研究部門の教員については、第3節の資料2-3-2を参照されたい。

2. 還流人事

先端研は、旧来の大学システムとは異なる組織をめざし、流動性を掲げたが、設立当時の国立大学のシステムの中で実際に流動性を実現させることは非常に困難であった。他の同様の組織が任期制を採用していない中、先端研だけ任期制を実施した場合、優秀な研究者はわざわざ短く不安定な研究生活を選択はしない。特に若い研究者にとっては、先端研に着任しても定年まで勤め上げることが出来ず、次の職場の心配をしなければならない。こうした中、先端研が導入した「還流人事」の仕組みは、当時の固定化した大学の人事システムの中で、優秀な研究者を先端研に惹きつけて、流動性を実現するための工夫であった。

還流人事とは、次のような一連の人事手続きを制度化したものである。まず、東京大学内の他の部局、組織を先端研の研究協力組織とする。その研究協力組織から推薦を受けた研究者を、先端研教授会での承認の上で採用する。その際、当該研究者の任期が来た際には、推薦をした研究協力組織がその研究者を任用、もしくは他の職を斡旋するなどの覚書をその研究協力組織と交わす。この覚書の例文は、第1章第4節の資料1-4-4に示したものである。

ただしこの還流人事の制度は、教員を送り出す側（研究協力組織）にとっては優秀な人材を一時的に奪われることを意味し、特に最初の人材の確保は非常に難しかったようである。猪瀬博元工学部長は次のように語っている。

「こういう試みは最初が肝腎ですから、最初に一番いいひとに来てもらわなければ困る。けれどもそういうひとは、学部や学科がそう簡単に出してはくれません。ですから、そのために私はご本人を説得したあとその学部の教授会に、任期を終えたら必ずお帰ししますから、かわりに、そのときのための受皿を用意しておいてくださいと、大変虫のいいお願いをしたのです。それで各学部とも、とても気楽にひとを出してくださったのです。（中略）はじめから私は、トップクラスの研究者が来てくれないかぎり理想は達成できないと思っていましたが、流動性をうちだしたからいいひとに来ていただけたという面もあるのです」²⁾。

このような苦労を経て、工学部の各研究科、当時六本木にあった生産技術研究所、医学部、教養学部、経済学部と還流人事が始まり、そのうちの多くは現在でも続いている。ただしこの還流に甘んじることなく、先端研では研究協力組織の推薦した研究者をよく吟味し、ときには採用しないということもあったようである。研究協力組織の側でも、先端研がOKを出す候補者を選出し、内部に適任者が見つからない場合、外部から採用して先端研に派遣するということがあったようである。

3. 招聘人事

先端研設立当初は、境界領域研究施設から来た研究者と、還流人事によって来た研究者がほとんどを占めていたが、先端研の定員の増加、助手ポストの教授ポストへの転換などにより、研究協力組織

2) 東京大学先端科学技術研究センター編『東大先端研 ジェネリック・テクノロジーの発振』、三田出版会、1991年、p.7。

の推薦を経ない、先端研独自の人事が増えていった。ここでは、これを招聘人事と呼ぶ。

招聘した教員を見ると、他の大学はもちろんのこと、企業出身者や官公庁出身など、多種多様な人材を広く求めており、先端研の特色が表れた人事となっている。特に顕著なのは文科系の教員である。文系教員も当初は教養学部、経済学部との還流によって招いていたが、90年代半ば以降、青木保（文化人類学）、野口悠紀雄（経済工学）などを外部から招聘した。岸センター長は、このころの先端研が目指した形を「ミニ東大」と表現している。その後、文系以外でも招聘人事が目立ち始め、分野的な多様性を招聘人事によって確保する方向にシフトしている。

ただし、流動性の原則に従い、招聘人事であっても最長10年の任期は考慮に入れられている。招聘する際には、定年が10年以内に来る研究者か、官庁等からの出向というような形で、在職が10年を超えないように調整されている。ただし、近年の人事ではテニユア制の導入を見越してか、比較的若い研究者を公募等で招聘するようになってきている。

招聘の仕方も特徴的である。たとえば東京工業大学に所属していた軽部征夫教授は、柳田博明教授から電話で直接要請を受けた。そして、指導する大学院生を含む研究室丸ごとで先端研に異動した³⁾。即断即決、柔軟性という先端研の特徴が表れている。

2001年からのスーパーCOEに伴い、特任教員制度の導入により、さらに招聘人事は柔軟に行われている（本節5、第4節参照）。また、研究と経営の分離を目標とし、経理戦略担当の教授として経済産業省出身から澤昭裕を招くなど、法人化後も先駆的な招聘人事が続いている。

4. 客員教員

先端研では、客員教員の制度を戦略的に利用している。その結果、客員教授には高名な研究者のみならず、さまざまな個性を持った人材が集まることとなった。

先端研の客員教授でもっとも著名なのは、評論家の立花隆であろう。彼は1995年4月から先端研に客員教授として在籍し、98年3月に離れるまでの間、先端研の存在を世に知らしめる活動を活発に行った（第4章参照）。このほか、餌取章男、堺屋太一、島田晴雄、中村桂子、米本昌平、などの言論人として知られる客員教員が所属することで、先端科学技術研究センターという名称を、世間一般に浸透させる効果が働いた。

また、産業界や官庁とのつながりを作る上でも客員制度を利用している。科学ジャーナリストとして知られている先述の餌取章男は、日経サイエンス、三田出版の取締役も歴任していた。ベンチャーの草分けとして知られる飯塚哲哉（サインエレクトロニクス株式会社代表取締役）や、最近ではJR東海会長の葛西敬之を迎えている。そのほか、大蔵事務次官を退官し就任した小川是、現職の日本学術会議会長であった黒川清など、官界、学界の重要人物の招聘も多い。

一方で、地道な学術的貢献を続けている研究者の招聘も同時に行われており、その面でも先端研の評価を高めている。

3) 那野比古『東大先端研』、NTT出版、pp.27-30。なお軽部教授は、先端研赴任当初は医学部を研究協力組織とする還流人事の形式を採っていた。

5. 特任教員制度

特任教員制度は、スーパーCOEの際に先端研が導入を進め、定着した、新しい雇用形態の教員制度である。

従来の国立大学のシステムでは、組織で雇うことのできる教員の数に定員制という制約があり、各組織の判断で自由に教員を増やすことはできず、また雇う限りは国家公務員として終身雇用が原則となっていた。最新の研究動向に合わせ、機動的に研究プロジェクトを立ち上げて運用する場合に、このような公務員型の雇用形態では限界があることから、組織改革を目指すスーパーCOEにおいて、改革の目玉の一つとして特任教員制度は導入された（第4節参照）。

一般の教員が運営費交付金によって雇用されるのとは異なり、特任教員は科学技術振興調整費をはじめとする外部資金により雇用される。また最長5年という任期が設定され、年度ごとに契約が更新されるのが基本となっている。これは、契約による雇用という理念を実践したものである。給与は年俸制により支給される。

特任教員は、先端研の教授総会へ出席する権利を有するなど、基本的に交付金教員と同等の権利を有しているが、人事投票権は有していない。センター長候補の選考については、カテゴリー1の特任教員は投票権を有する。認められれば、大学院での学生の指導もでき、博士の学位審査にも加わることもができる。

先端研で導入された特任教員制度は、その後、その名称とともに全国の大学に波及している。21世紀COE等のプロジェクトで研究者を招聘する場合や、昨今の運営費交付金の年1%削減への対応として交付金教員の定員を埋めずに人を確保する場合などにも、特任教員制度は利用されている。

制度導入に際しては、より優秀な研究者を雇用すべく、高額な年俸も設定できるよう企図したが、これはさまざまな制約により2007年現在も実現に至っていない。先端研として今後は、このような独自の給与の設定を可能とし、あるいは運営費交付金と外部資金をミックスして教員を雇用できるよう、新たな制度改革を目指している。

6. 基金教授制度

基金教授とは、寄付金等の経費によって、客員ではない正規の教員を雇用できる制度である。この制度は、2004年4月の国立大学法人化によって導入が可能となった。先端研ではその第1号として、製薬会社の興和株式会社の寄付金による基金教授職を2004年5月1日より設置し、公募による選考の結果、児玉龍彦特任教授が基金教授に就任している。

従来の寄付研究部門では、文部科学省の規制によって開設期間が3年以上5年以下と限られ、ここで招聘する教員も教授会正規メンバーではない客員教授などの身分とされていた。基金教授は、教授会の正規メンバーとして活動し、特任教員とは異なり人事権も有する。

7. 資料

ここでは、講師以上の交付金教員（資料2-2-1）、交付金助手・助教（資料2-2-2）、客員教員（資料2-2-3）、特任教員（資料2-2-4）の一覧を掲載する。これらの資料は、先端研に残る紙ベースの辞令等の人事記録をもとに作成された、先端研人事記録データベースを基本としている。このデータベースは、今井雅・駒場オープンラボラトリー特任准教授を中心として作成されたものである。ここに記して感謝申し上げたい。

そのほか、本項のデータは次の資料を用いている。『先端研紀要』（紙版、ウェブ版）、『先端研ニュース』、『先端研概要』、『寄付研究部門活動報告書』、『先端研 参与会・協議会』（所長室所蔵資料）、『教授会議事録』（先端研倉庫所蔵資料）、大須賀節雄元センター長提供資料、先端研ウェブサイト、東京大学先端科学技術研究センター編『東大先端研 ジェネリック・テクノロジーの発振』（三田出版会、1991年）、国際・産学共同研究センターウェブサイト、『先端経済工学研究センター概要』、『東京大学学内広報』、『工学部ニュース』、工学系研究科各専攻のウェブサイト、『生研ニュース』、生産技術研究所ウェブサイト、東京大学学位論文データベース、その他各種ウェブサイト。

これらの資料によって先端研人事記録データベースの情報を補完、修正、確認を行い、各資料間に齟齬がある場合などは、適宜判断し、より適切と思われる形で掲載した。資料の散逸や、整合性確保の手段がないことなどから、不正確な点もあることを、あらかじめお断りしておきたい。

資料2-2-1 交付金教員一覧

本資料は、先端研と関連組織に所属した講師以上の交付金教員（運営費交付金によって雇用されている常勤の教員）の経歴一覧を示している。本務が先端研と関連組織（先端学際工学専攻、国際・産学共同研究センター、先端経済工学研究センター、駒場オープンラボ）ではない場合は、その職を括弧に入れている。データ上、兼務、兼任などと標記されていたものは全て併任としている。関連組織から先端研への併任は記載していない。転出の日付は、先端研所属教員ではなくなった日を指し、転出先への着任日等を示すものではない。

相澤 龍彦 Tatsuhiko Aizawa

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学系研究科金属工学専攻教授

2000/4/1 高信頼性材料分野教授
2002/4/1 国際・産学共同研究センター教授
2004/4/24 転出

青木 保 Tamotsu Aoki

学位：大阪大学博士（人間科学）
前職：大阪大学人間科学部教授

1996/4/1 情報技術社会相関分野教授
1999/4/1 転出（政策研究大学院大学政策研究科教授）

青木 輝勝 Terumasa Aoki

学位：東京大学博士（工学）

1998/4/1 科学技術開発法分野助手
2002/4/1 応用情報工学分野講師
2007/6/1 転出（東北大学電気通信研究所准教授）

赤石 美奈 Mina Akaishi

学位：北海道大学博士（工学）
前職：北海道大学工学部助手

2004/3/1 知能工学講座（先端学際工学専攻）助教授
2007/4/1 知能工学講座（先端学際工学専攻）准教授

秋元 肇 Hajime Akimoto

学位：東京工業大学博士（理学）

1993/1/1 地球環境物質科学分野教授
2001/4/1 転出（海洋科学技術センター地球フロンティア研究システム領域長）

浅沼 浩之 Hiroyuki Asanuma

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学系研究科助教授

2000/5/1 生命反応化学分野助教授
2005/5/1 転出（名古屋大学大学院工学研究科物質制御工学専攻教授）

油谷 浩幸 Hiroyuki Aburatani

学位：東京大学博士（医学）
前職：医学部付属病院第三内科助手

1999/4/1 ゲノムサイエンス講座（先端学際工学専攻）助教授
2001/9/1 ゲノムサイエンス分野教授
2002/4/1 国際・産学共同研究センター教授
2006/4/1 ゲノムサイエンス分野教授

荒川 泰彦 Yasuhiko Arakawa

学位：東京大学博士（工学）
前職：生産技術研究所助教授

1988/4/1 極小デバイス分野助教授
1992/7/1 （生産技術研究所 応用電子工学部門助教授）
1992/7/1 ～ 1992/9/30 極小デバイス分野助教授に併任
1996/7/1 （国際・産学共同研究センター教授）
1998/7/1 極小デバイス分野教授

荒巻 俊也 Toshiya Aramaki

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学系研究科講師

1999/1/1 都市環境システム分野講師
2004/3/16 転出（工学系研究科都市工学専攻助教授）

池袋 一典 Kazunori Ikebukuro

学位：東京大学博士（工学）

1993/4/1 バイオセンサー分野助手
1996/4/1 バイオセンサー分野講師
2001/4/1 転出（東京農工大学工学部助教授）

石井 泰 Yasushi Ishii

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学部附属境界領域研究施設 教授

1988/4/1 物理情報変換デバイス分野教授
1992/4/1 転出（計測科学研究所）

石谷 久 Hisashi Ishitani

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学部附属境界領域研究施設助教授

1988/4/1 情報技術社会相関分野助教授
1989/1/1 転出（工学部資源開発工学科教授）

和泉 真 Makoto Izumi

学位：京都大学博士（理学）
前職：工学系研究科講師

2001/5/1 フォトニクス材料分野講師

伊藤 滋 Shigeru Ito

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学部都市工学科教授

1987/4/1 都市環境システム分野教授
1991/4/1 転出（工学部都市工学科教授）

伊藤 隆敏 Takatoshi Ito

学位：ハーバード大学博士
前職：一橋大学経済研究所教授

2002/4/1 情報文化社会分野教授
2004/4/1 転出（経済学研究科現代経済専攻教授）
2004/4/1 ～ 2005/3/31 情報文化社会分野教授に併任

伊藤 寿浩 Toshihiro Ito

学位：東京大学博士（工学）
前職：日本学術振興会特別研究員

1994/5/16 微小製造科学分野助手
1995/4/16 （工学系研究科精密機械工学専攻講師）
1995/10/1 微小製造科学分野講師
1999/4/1 微小製造科学分野助教授
2004/4/1 転出（工学系研究科精密機械工学専攻教授）

伊藤 良一 Ryoichi Ito

学位：東京大学博士（理学）
前職：工学部物理工学科教授

1987/4/1 フォトニクス材料分野教授
1991/9/1 転出（工学部物理工学科教授）

井野 秀一 Shuichi Ino

学位：北海道大学博士（工学）
前職：北海道大学電子科学研究所講師

2003/4/1 生命情報ネットワーク分野助教授
2007/4/1 生命情報ネットワーク分野准教授

伊福部 達 Tohru Ifukube

学位：北海道大学博士（工学）
前職：北海道大学電子科学研究所教授

2002/7/1 生命情報ネットワーク分野教授

井街 宏 Kou Imachi

学位：東京大学博士（医学）

1997/4/1 ～ 1999/3/31 人工生体機構分野教授に併任（本務：医学系研究科）
1999/4/1 ～ 2001/3/31 生命情報ネットワーク分野教授に併任（本務：医学系研究科）

岩本 敏 Satoshi Iwamoto

学位：東京大学博士（工学）
前職：生産技術研究所講師

2003/9/1 極小デバイス分野講師

氏平 祐輔 Yusuke Ujihira

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学部工業化学科教授

1992/4/1 化学認識機能材料分野教授
1997/4/1 転出（東京大学名誉教授）

榎 学 Manabu Enoki

学位：東京大学博士（工学）

1988/9/1 ロボティクス材料分野助手
1991/4/1 ロボティクス材料分野講師
1992/4/1 高信頼性材料分野講師
1993/8/16 高信頼性材料分野助教授
2000/4/1 転出（工学系研究科材料学専攻助教授）

遠藤 薫 Kaoru Endo

前職：独立法人都市再生機構職員

2007/6/1 都市環境システム分野都市再生プロジェクト担当教授

大越 慎一 Shin-ichi Ohkoshi

学位：東北大学博士（理学）

1997/9/1 化学認識機能材料分野助手
2000/9/1 化学認識機能材料分野講師
2003/4/1 化学認識機能材料分野助教授
2004/7/16 転出（工学系研究科応用化学専攻助教授）

大越 孝敬 Takanori Ohkoshi

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学部電子工学科教授

1987/4/1 光デバイス分野教授
1987/5/21 ～ 1989/3/31 センター長
1993/1/1 転出（産業技術融合領域研究所 所長）
1993/1/1 ～ 1993/3/31 光デバイス分野教授に併任

大須賀 節雄 Setsuo Ohsuga

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学部附属境界領域研究施設教授

1988/4/1 知識処理・伝達システム分野教授
1991/4/1 ～ 1993/3/31 センター長
1992/4/10 知能工学講座（先端学際工学専攻）教授
1995/4/1 転出（早稲田大学教授）

大西 隆 Takashi Onishi

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学系研究科都市工学専攻教授

1998/4/1 都市環境システム分野教授

大淵 哲也 Tetsuya Obuchi

学位：ハーバード大学博士（司法科学）
前職：東京高等裁判所判事

1999/4/1 科学技術開発法分野教授
2003/5/1 転出（法学政治学研究科教授）

岡部 洋一 Yoichi Okabe

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学部電子工学科助教授

1990/4/1 高速電子機能デバイス分野教授
1996/7/1 国際・産学共同研究センター教授
1997/5/1 高速電子機能デバイス分野教授
1999/4/1 情報デバイス分野教授
1999/4/1 ～ 2001/3/31 センター長
2000/4/1 ～ 2002/3/31 駒場オープンラボラトリー長
2002/4/1 転出（工学系研究科電子工学専攻教授）

長田 俊人 Toshihito Osada

学位：東京大学博士（工学）
前職：教養学部助手

1992/3/1 フォトニクス材料分野講師
1996/3/1 フォトニクス材料分野助教授
1998/4/1 転出（物性研究所極限環境物性研究部門助教授）
1998/4/1 ～ 1999/3/31 フォトニクス材料分野助教授に併任

香川 豊 Yutaka Kagawa

学位：早稲田大学博士（工学）
前職：三菱電機株式会社材料研究所金属セラミック材料技術部主事

1988/7/16 未来材料（新日鉄）寄付研究部門客員助教授
1989/4/1 （生産技術研究所助教授）
1998/7/1 （生産技術研究所教授）
2003/10/1 （工学系研究科マテリアル工学専攻教授）
2005/2/1 国際・産学共同研究センター教授

梶井 克純 Yoshizumi Kajii

学位：東京工業大学博士（理学）
前職：東京工業大学理学部助手

1993/11/1 地球環境物質科学分野助教授
2000/4/1 地球大気環境科学分野助教授
2002/4/1 転出（東京都立大学大学院工学研究科応用化学専攻教授）

河東田 隆 Takashi Katoda

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学部附属境界領域研究施設助教授

1988/4/1 高速電子機能デバイス分野助教授
1990/1/1 転出（工学部助教授）

軽部 征夫 Isao Karube

学位：東京工業大学博士（工学）
前職：東京工業大学資源化学研究所教授

1988/4/1 バイオセンサー分野助教授
1997/4/1 生体機能工学分野教授
1999/4/1 国際・産学共同研究センター教授
1999/4/1 ～ 2001/3/31 国際・産学共同研究センター長
2001/4/1 転出（東京工科大学片柳研究所教授）

河内 啓二 Keiji Kawachi

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学部附属境界領域研究施設助教授

1988/4/1 バイオメカニクス分野助教授
1990/10/16 （工学部航空学科教授）
1992/4/1 バイオメカニクス分野教授
2002/9/1 転出（工学系研究科航空宇宙工学専攻教授）

神崎 亮平 Ryohei Kanzaki

学位：筑波大学博士（理学）
前職：大学院情報理工学研究科知能機械情報学専攻教授

2006/4/1 生命知能システム分野教授

菊池 和朗 Kazuro Kikuchi

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学系研究科電子工学専攻教授

1997/4/1 光デバイス分野教授
2007/4/1 転出（新領域創成科学研究科教授）

岸 輝雄 Teruo Kishi

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学部附属境界領域研究施設助教授

1987/6/1 耐環境材料分野助教授
1988/4/1 ロボティクス材料分野教授
1992/4/1 高信頼性材料分野教授
1995/4/1 ～ 1997/3/31 センター長
1997/4/16 転出（産業技術融合領域研究所所長）
1997/4/16 ～ 2000/3/31 高信頼性材料分野教授に併任

岸本 昭 Akira Kishimoto

学位：東京大学博士（工学）
前職：生産技術研究所助手

1994/1/1 インテリジェント材料学講座（先端学際工学専攻）
講師
1997/5/16 インテリジェント材料学講座（先端学際工学専攻）
助教授
1997/7/1 転出（生産技術研究所助教授）

木原 諄二 Junji Kihara

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学部金属工学科教授

1987/4/1 耐環境材料分野教授
1989/2/1 転出（工学部教授）
1989/2/1 ～ 1989/8/31 耐環境材料分野教授に併任

木村 文彦 Fumihiko Kimura

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学部精密機械工学科教授

1988/4/1 ファクトリーオートメーション分野教授
1992/4/1 転出（工学部精密機械工学科教授）

工藤 徹一 Tetsuichi Kudou

学位：東京大学博士（工学）

1997/10/1 ～ 2001/3/31 インテリジェント材料学講座（先端学際工学専攻）教授に併任

栗栖 聖 Kiyo Hasegawa-Kurusu

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学系研究科都市工学専攻助手

2006/4/1 都市環境システム分野講師

ロバート・ケネラー Robert William Kneller

学位：ハーバード大博士（法律）
学位：メイヨー医学大学院 博士（医学）

1998/9/1 先端生命工学分野教授
1999/4/1 生命科学の法と政策分野教授

小出 治 Osamu Koide

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学部都市工学科助教授

1987/6/1 都市環境システム分野助教授
1990/11/16 （工学部教授）
1991/4/1 都市環境システム分野教授
1993/1/1 転出（工学系研究科都市工学専攻教授）

児玉 龍彦 Tatsuhiko Kodama

学位：東京大学博士（医学）
前職：医学部附属病院第三内科助手

1996/4/1 科学技術と社会的価値分野教授
1999/4/1 分子生物医学分野教授
2002/4/1 システム生物医学分野特任教授
2004/5/1 システム生物医学分野興和基金教授

児玉 文雄 Fumio Kodama

学位：東京大学博士（工学）
前職：東京工業大学工学部経営システム工学科教授

1994/4/1 科学技術産業相関分野教授
1995/5/16 科学技術論・科学技術政策講座（先端学際工学専攻）教授
1999/4/1 先端産業創出戦略分野（先端経済工学研究センター）教授
2003/4/1 転出（芝浦工業大学大学院マネジメント研究科長）

後藤 晃 Akira Goto

学位：一橋大学博士（経済学）
前職：一橋大学イノベーション研究センター教授

2001/11/1 経済工学分野（先端経済工学研究センター）教授
2004/4/1 経済工学分野教授
2005/4/1 技術経済論分野教授
2007/2/18 転出（公正取引委員会委員）

小宮山 眞 Makoto Komiyama

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学系研究科科学生命工学専攻教授

2000/4/1 生命反応化学分野教授

近藤 豊 Yutaka Kondo

学位：東京大学博士（理学）
前職：名古屋大学太陽地球環境研究所教授

2000/4/1 地球大気環境科学分野教授

榎 裕之 Hiroyuki Sakaki

学位：東京大学博士（工学）
前職：生産技術研究所教授

1988/2/15 極小デバイス分野教授
1996/7/1 転出（生産技術研究所第3部応用電子工学部門教授）
1996/8/1～1998/3/31 極小デバイス分野教授に併任

佐々木 健 Ken Sasaki

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学部精密機械工学科助教授

1988/4/1 ファクトリーオートメーション分野助教授
1990/10/1 転出（工学部助教授）

佐々木 元 Gen Sasaki

学位：東北大学博士（工学）
前職：防衛庁防衛大学校材料物性工学教室助手

1992/4/1 ファクトリーオートメーション分野助手
1994/3/1 微小製造科学分野助手
1994/4/1 微小製造科学分野講師
1995/4/1 転出（広島大学工学部助教授）

貞廣 幸雄 Yukio Sadahiro

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学系研究科都市工学科講師

1995/8/1 都市環境システム分野講師
1998/6/1 転出（空間情報科学研究センター空間情報解析研究部門助教授）

佐藤 知正 Tomomasa Sato

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学部機械工学科教授

1991/10/1 巨大システム分野教授
1994/4/1 生命知能システム分野教授
1998/4/1 転出（工学系研究科機械情報工学専攻教授）
1998/4/1～1999/6/30 生命知能システム分野教授に併任

澤 昭裕 Akihiro Sawa

学位：プリンストン大学修士（行政学）
前職：経済産業省資源・燃料部政策課長

2004/8/1 経営戦略担当教授

澤田 嗣郎 Tsuguo Sawada

学位：東京大学博士（工学）

1996/10/1～1997/9/30 インテリジェント材料学講座（先端学際工学専攻）教授に併任（本務：工学系研究科応用化学専攻）

清水 初志 Hatsushi Shimizu

学位：東京大学博士（薬学）
前職：清水国際特許事務所所長

1997/7/1 知的財産法分野助教授
1998/3/1 転出（清水国際特許事務所所長）
1999/1/1～2000/12/31 技術移転法・技術移転政策分野客員教授

白木 靖寛 Yasuhiro Shiraki

学位：東京大学博士（工学）
前職：株式会社日立製作所中央研究所主任研究員

1987/12/1 フォトニクス材料分野助教授
1991/4/1 フォトニクス材料分野教授
2001/4/1 転出（工学系研究科物理工学専攻教授）

須賀 唯知 Tadatomo Suga

学位：シュトゥットガルト大学博士（理学）
前職：（工学部精密機械工学科助教）

1990/12/1 ファクトリーオートメーション分野助教授
1993/10/16 （工学部教授）
1994/3/1 微小製造科学分野教授
2004/2/1 転出（工学系研究科精密機械工学専攻教授）

菅 裕明 Hiroaki Suga

学位：マサチューセッツ工科大学博士
前職：バッフアロー大学化学部準教授

2003/4/1 ケミカル・バイオテクノロジー分野助教授
2005/1/1 ケミカル・バイオテクノロジー分野教授

鈴木 宏正 Hiromasa Suzuki

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学系研究科精密機械工学専攻教授

2004/2/1 製造情報システム分野教授

須磨岡 淳 Jun Sumaoka

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学系研究科化学生命工学専攻助手

2006/2/16 生命反応化学分野講師

瀬川 浩司 Hiroshi Segawa

学位：京都大学博士（工学）
前職：総合文化研究科・教養学部教授

2006/4/1 エネルギー環境分野教授

芹澤 武 Takeshi Serizawa

学位：東京工業大学博士（工学）
前職：鹿児島大学大学院理工学研究科助教授

2004/1/1 バイオナノマテリアル分野助教授
2007/1/1 バイオナノマテリアル分野准教授

相馬 宣和 Nobukazu Soma

学位：東北大学博士（工学）
前職：（独）産業技術総合研究所研究員

2006/4/1 経営戦略担当助教授
2007/4/1 経営戦略担当准教授

染谷 隆夫 Takao Someya

学位：東京大学博士（工学）
前職：生産技術研究所講師

2000/1/1 極小デバイス分野講師
2002/5/1 極小デバイス分野助教授
2003/5/1 転出（工学系研究科附属量子相エレクトロニクス
研究センター助教授）

高橋 琢二 Takuji Takahashi

学位：東京大学博士（工学）
前職：生産技術研究所講師

1992/11/16 極小デバイス分野講師
1996/4/1 極小デバイス分野助教授
2000/1/1 転出（生産技術研究所マイクロ波工学部門助教授）

高橋 宏知 Hirokazu Takahashi

学位：東京大学博士（工学）
前職：情報理工学系研究科知能機械情報学専攻講師

2006/8/16 生命知能システム分野講師

多久島 裕一 Yuichi Takushima

学位：東京大学博士（工学）

1995/4/1 光デバイス分野助手
1997/4/1 光デバイス分野講師
2000/4/1 光デバイス分野助教授
2006/3/1 転出

竹内 啓 Kei Takeuchi

学位：東京大学博士（経済学）
前職：経済学部教授

1987/4/1 科学技術産業相關分野教授
1993/4/1 転出（経済学部教授）
1993/4/1 ～ 1994/3/31 科学技術産業相關分野教授に併任

竹川 暢之 Nobuyuki Takegawa

学位：東京大学博士（理学）

2002/4/1 地球大気環境科学分野助手
2003/11/1 地球大気環境科学分野助教授
2007/4/1 地球大気環境科学分野准教授

武田 展雄 Nobuo Takeda

学位：東京大学博士（工学）
前職：九州大学応用力学研究所助教授

1988/5/15 ロボット材料分野助教授
1991/4/1 バイオメカニクス分野助教授
1996/7/1 国際・産学共同研究センター教授
1998/4/1 転出（工学系研究科航空宇宙工学専攻教授）

舘 暲 Susumu Tachi

学位：東京大学博士（工学）
前職：工業技術院機械技術研究所ロボティクス部遠隔制御課長

1989/9/1 ～ 1990/12/31 物理情報変換デバイス分野助教授に併任
1991/1/1 物理情報変換デバイス分野助教授
1992/4/1 物理情報変換デバイス分野教授
1994/4/1 転出（工学部計数工学専攻計数工学講座教授）
1994/4/1 ～ 1996/3/31 情報物理システム分野教授に併任

立間 徹 Tetsu Tatsuma

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学系研究科応用化学専攻講師

2000/6/16 インテリジェント材料学講座（先端学際工学専攻）講師
2000/7/16 インテリジェント材料学講座（先端学際工学専攻）助教授
2001/7/1 転出（生産技術研究所助教授）

谷川 智洋 Tomohiro Tanikawa

学位：東京大学博士（工学）
前職：通信・放送機構 MVL リサーチセンター研究員

2005/6/16 生命知能システム分野講師
2006/8/16 転出（情報理工学系研究科知能機械情報学専攻講師）

谷田 好通 Yoshimichi Tanida

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学部附属境界領域研究施設教授

1988/4/1 バイオメカニクス分野教授
1992/4/1 転出（東海大学）

種村 拓夫 Takuo Tanemura

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学系研究科講師

2007/6/1 情報デバイス分野講師

玉井 克哉 Katsuya Tamai

学歴 東京大学法学部卒
前職：法学政治学研究科助教授

1995/10/1 科学技術倫理分野助教授
1997/5/1 科学技術財産法分野教授
1999/4/1 知的財産法分野教授

民谷 栄一 Eiichi Tamiya

学位：東京工業大学博士（工学）
前職：東京工業大学資源化学研究所講師

1988/4/1 バイオセンサー分野助教授
1993/4/1 （北陸先端科学技術大学院大学 材料科学研究科教授）

鎮西 恒雄 Tsuneo Chinzei

学位：東京大学博士（医学）

1987/6/16 生体計測分野助手
1994/7/1 （医学部付属医用電子研究施設臨床医学電子部門助手）
1999/5/1 人工生体機構分野助教授
2007/4/1 人工生体機構分野准教授

土肥原 洋 Hiroshi Doihara

学歴 東京大学経済学部卒
前職：経済企画庁総合統計局経済構造調整推進室室長

1990/4/1 科学技術産業相関分野助教授
1992/4/1 転出（経済企画庁長官官房付）

中島 尚正 Naomasa Nakajima

先端学際工学専攻学際設計工学講座において、工学系研究科産業機械工学専攻所属教官として教育にあたる

中島 典之 Fumiyuki Nakajima

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学系研究科講師

2004/3/16 都市環境システム分野講師
2006/3/1 転出（環境安全センター助教授）

中須賀 真一 Shin-ichi Nakasuka

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学部航空学科講師

1994/4/1 知能工学講座（先端学際工学専攻）助教授
1998/4/1 転出（工学系研究科航空宇宙工学専攻助教授）

中野 義昭 Yoshiaki Nakano

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学系研究科教授

2002/4/1 情報デバイス分野教授

中村 宏 Hiroshi Nakamura

学位：東京大学博士（工学）
前職：筑波大学電子・情報工学系助教授

1996/7/1 情報物理システム分野助教授
2007/4/1 情報物理システム分野准教授

中山 靖司 Yasushi Nakayama

学位：東京工業大学修士
前職：日本銀行金融研究所

1999/6/16 次世代電子商取引分野（先端経済工学研究センター）助教授
2001/4/1 転出（日本銀行）

南谷 崇 Takashi Nanya

学位：東京工業大学博士（工学）
前職：工学系研究科教授

1996/4/1～1996/9/30 情報物理システム分野教授に併任
1996/10/1 情報物理システム分野教授
2001/4/1～2004/3/31 センター長
2002/4/1～ 駒場オープンラボラトリー長

二木 鋭雄 Etsuo Niki

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学部反応化学科教授

1990/4/1 分子情報機能材料分野教授
1996/4/1 生命反応化学分野教授
1997/4/1～1999/3/31 センター長
1998/4/9～2000/3/31 駒場オープンラボラトリー長
2000/4/1 転出（宇都宮大学工学部教授）

西村 幸夫 Yukio Nishimura

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学部都市工学科助教授

1991/3/1 都市環境システム分野助教授
1995/3/16 転出（工学部助教授）

野口 祐二 Yuji Noguchi

学位：長岡技術科学大学博士（工学）
前職：工学系研究科応用化学専攻講師

2004/7/16 化学認識機能材料分野講師
2006/11/16 化学認識機能材料分野助教授
2007/4/1 化学認識機能材料分野准教授

野口 悠紀雄 Yukio Noguchi

学位：エール大学博士（経済学）
前職：一橋大学経済学部教授

1996/1/1～1996/3/31 科学技術産業相関分野教授に併任
1996/4/1 科学技術産業相関分野教授
1999/4/1 経済工学分野（先端経済工学研究センター）教授
2001/4/1 転出（青山学院大学教授）

橋本 和仁 Kazuhito Hashimoto

学位：東京大学博士（理学）
前職：工学系研究科教授

1997/7/1 化学認識機能材料分野教授
2004/4/1 インテリジェント材料学講座（先端学際工学専攻）教授
2004/4/1～2007/3/31 所長

橋本 毅彦 Takehiko Hashimoto

学位：ジョンズ・ホプキンス大学博士
前職：大学院総合文化研究科助教授

1996/5/16 科学技術論・科学技術政策講座（先端学際工学専攻）助教授
1999/10/16 科学技術論・科学技術政策講座（先端学際工学専攻）教授
2006/4/1 転出（大学院総合文化研究科教授）

花木 啓祐 Keisuke Hanaki

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学部教授

1993/1/1 都市環境システム分野教授
1998/4/1 転出（工学系研究科都市工学専攻教授）

馬場 靖憲 Yasunori Baba

学位：英国サセックス大学博士
前職：人工物工学研究センター教授

2001/7/1 次世代電子商取引分野（先端経済工学研究センター）教授
2004/4/1 次世代電子商取引分野教授
2005/4/1 経営情報分野教授
2006/4/1 社会共創分野教授

浜窪 隆雄 Takao Hamakubo

学位：京都大学博士（医学）
前職：京都大学化学研究所助手

1996/5/1 科学技術と社会的価値分野助手
1997/4/1 科学技術と社会的価値分野講師
1999/4/1 分子生物医学分野助教授
2002/4/1 分子生物医学分野教授

東口 實 Minoru Higashiguchi

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学部附属境界領域研究施設教授

1988/4/1 高速電子機能デバイス分野教授
1990/4/1 転出（東京工科大学）

日暮 栄治 Eiji Higurashi

学位：東北大学博士（工学）
前職：工学系研究科精密機械工学専攻助教授

2004/4/1 製造情報システム分野助教授
2007/4/1 製造情報システム分野准教授

久田 俊明 Toshiaki Hisada

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学部機械工学科助教授

1988/4/1 巨大システム分野助教授
1993/12/1 転出（工学部機械情報工学専攻教授）

平田 賢 Masaru Hirata

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学部船用機械工学科教授

1988/4/1 巨大システム分野教授
1991/4/1 転出（工学部教授）
1991/4/1 ~ 1991/8/31 巨大システム分野教授に併任

廣瀬 明 Akira Hirose

学位：東京大学大学院工学系研究科博士（工学）

1987/6/16 光デバイス分野助手
1991/2/16 高速電子機能デバイス分野講師
1995/4/1 高速電子機能デバイス分野助教授
1999/4/1 転出（大学院新領域創成科学研究科助教授）
1999/4/1 ~ 2002/3/31 情報デバイス分野助教授に併任

廣瀬 通孝 Michitaka Hirose

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学系研究科教授

1999/7/1 生命知能システム分野教授
2006/4/1 転出（情報理工学系研究科教授）
2006/4/1 ~ 生命知能システム分野教授に併任

廣田 光一 Koichi Hirota

学位：東京大学博士（工学）
前職：豊橋技術科学大学工学部助手

2000/1/1 生命知能システム分野助教授
2005/2/1 転出（新領域創成科学研究科環境学専攻助教授）
2005/3/1 ~ 2006/3/31 生命知能システム分野助教授に併任

廣松 毅 Takeshi Hiromatsu

学位：東京大学修士（経済学）
前職：教養学部助教授

1987/4/1 科学技術産業相関分野助教授
1989/11/1 情報技術社会相関分野教授
1995/4/1 転出（教養学部教授）
1995/4/1 ~ 1996/3/31 情報技術社会相関分野教授に併任

福島 智 Satoshi Fukushima

学位：東京都立大学修士（文学）
前職：金沢大学教育学部助教授

2001/4/1 生命情報ネットワーク分野助教授
2003/4/1 バリアフリー分野助教授
2007/4/1 バリアフリー分野准教授

藤井 真理子 Mariko Fujii

学歴 東京大学経済学部卒
前職：大蔵省関税局国際調査課課長

1999/4/16 情報文化社会分野助教授
2001/3/1 先端金融工学分野（先端経済工学研究センター）
教授
2004/4/1 先端金融工学分野教授

藤嶋 昭 Akira Fujishima

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学系研究科応用化学専攻教授

2000/6/16 インテリジェント材料学講座（先端学際工学専攻）
教授
2003/4/1 転出（神奈川科学技術アカデミー理事長）

藤正 巖 Iwao Fujimasa

学位：東京大学博士（医学）
前職：医学部医用電子工学研究施設助教授

1987/4/1 生体計測分野助教授
1988/10/16 生体計測分野教授
1995/4/1 人工生体機構分野教授
1996/4/1 転出（埼玉大学大学院政策科学研究科教授）
1996/5/1 ~ 1997/3/31 人工生体機構分野教授に併任

伏見 正則 Masanori Fushimi

学位：東京大学博士（工学）

1999/4/1 ~ 2000/3/31 先端金融工学分野（先端経済工学研究センター）教授に併任（本務：工学系研究科）

藤本 浩司 Koji Fujimoto

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学系研究科助教授

1999/4/1 バイオメカニクス分野助教授
2002/4/1 転出（工学系研究科航空宇宙工学専攻助教授）

二タ村 森 Shigeru Futamura

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学部助手

1990/12/1 分子情報機能材料分野講師
1993/3/1 分子情報機能材料分野助教授
1993/4/1 転出（通産省工業技術院資源環境技術総合研究所
大気圏環境保全部励起科学研究室主任研究官）

古川 俊之 Toshiyuki Furukawa

学位：大阪大学博士（医学）
前職：医学部医用電子工学研究施設

1987/4/1 生体計測分野教授
1988/4/1 転出（医学部付属医用電子研究施設基礎医学電子
部門教授）
1988/4/1～1988/10/15 生体計測分野教授に併任

保立 和夫 Kazuo Hotate

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学部附属境界領域研究施設講師

1987/4/1 光デバイス分野助教授
1993/4/1 光デバイス分野教授
1997/4/1 転出（工学系研究科教授）

堀 浩一 Koichi Hori

学位：東京大学博士（工学）
前職：国文学研究資料館研究情報部助教授

1988/4/1 知識処理・伝達システム分野助教授
1992/4/10 知能工学講座（先端学際工学専攻）助教授
1994/4/1（工学部航空宇宙工学科助教授）
1997/12/1（工学系研究科航空宇宙工学専攻教授）
1998/4/1 知能工学講座（先端学際工学専攻）教授

堀江 一之 Kazuyuki Horie

学位：東京大学博士（理学）
前職：工学部附属境界領域研究施設助教授

1988/4/1 分子情報機能材料分野助教授
1990/4/1 転出（工学部助教授）

町田 和雄 Kazuo Machida

学位：北海道大学博士（工学）
前職：工学系研究科航空宇宙工学専攻教授

2002/9/1 宇宙環境システム学分野教授

松岡 秀雄 Hideo Matsuoka

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学部附属境界領域研究施設助手

1987/6/1 科学技術産業相関分野助手
1992/4/1 科学技術産業相関分野講師
1996/4/1 科学技術産業相関分野助教授
1998/4/1 転出（帝京平成大学情報学部情報工学科教授）

松原 秀彰 Hideaki Matsubara

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学部金属材料学科講師

1988/6/1 耐環境材料分野講師
1991/3/1 耐環境材料分野助教授
1992/4/1 転出（財団法人ファインセラミックスセンター試
験研究所主任研究員）

満淵 邦彦 Kunihiko Mabuchi

学位：東京大学博士（医学）
前職：医学部付属医用電子研究施設助手

1989/7/16 生体計測分野助教授
1995/4/1 人工生体機構分野助教授
1996/7/1 国際・産学共同研究センター教授
2002/4/1 転出（大学院情報理工学系研究科システム情報学
専攻教授）

御厨 貴 Takashi Mikuriya

学歴 東京大学法学部卒
前職：政策研究大学院大学大学院政策研究科教授

2002/12/16～2003/3/31 生命大部門教授に併任
2003/4/1～2003/9/30 先端科学技術研究戦略分野（先端経
済学研究センター）教授に併任
2003/10/1 先端科学技術研究戦略分野（先端経済学研究セ
ンター）教授
2004/4/1 情報文化社会分野教授

溝口 博 Hiroshi Mizoguchi

学位：東京大学博士（工学）
前職：株式会社東芝研究開発センター機械・エネルギー研究
所第二研究所研究主務

1994/3/1 巨大システム分野助教授
1994/4/1 生命知能システム分野助教授
1997/4/1 転出（埼玉大学工学部助教授）

三田 達 Itaru Mita

学位：東京大学博士（理学）
前職：工学部附属境界領域研究施設教授

1988/4/1 分子情報機能材料分野教授
1990/4/1 転出（東京大学名誉教授）

宮野 健次郎 Kenjiro Miyano

学位：ノースウェスタン大学博士
前職：工学系研究科教授

2001/4/1 フォトニクス材料分野教授
2007/4/1 ～ 所長

宮山 勝 Masaru Miyayama

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学系研究科合成化学専攻講師

1987/6/1 化学認識機能材料分野講師
1988/6/1 化学認識機能材料分野助教授
1997/4/1 （工学系研究科応用化学専攻助教授）
1997/4/1 ～ 2001/3/31 インテリジェント材料学講座（先端学際工学専攻）助教授に併任
1999/9/1 （生産技術研究所助教授）
2001/4/1 （生産技術研究所教授）
2003/11/16 （工学系研究科応用化学専攻教授）
2004/4/1 化学認識機能材料分野教授

村上 存 Tamotsu Murakami

先端学際工学専攻学際設計工学講座において、工学系研究科産業機械工学専攻所属教官として教育にあたる

村上 陽一郎 Yoichiro Murakami

学位：東京大学博士
前職：教養学部教授

1988/4/1 ～ 1989/3/31 科学技術倫理分野教授に併任
1989/4/1 科学技術倫理分野教授
1992/4/10 科学技術論・科学技術政策講座（先端学際工学専攻）教授
1993/4/1 ～ 1995/3/31 センター長
1995/4/1 転出（国際基督教大学教授）

元橋 一之 Kazuyuki Motohashi

学位：慶應義塾大学博士（商学）
前職：一橋大学イノベーション研究センター助教授

2004/1/16 科学技術政策講座（先端学際工学専攻）助教授
2006/5/1 科学技術政策講座（先端学際工学専攻）教授
2006/7/1 転出（工学系研究科技術経営戦略学専攻教授）

森 武俊 Taketoshi Mori

学位：東京大学博士（工学）
前職：日本学術振興会研究員

1995/4/1 生命知能システム分野助手
1998/4/1 生命知能システム分野講師
1999/4/1 転出（工学系研究科機械情報工学専攻講師）

森川 博之 Hiroyuki Morikawa

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学系研究科教授

2007/4/1 国際・産学共同研究センター教授

矢入 健久 Takehisa Yairi

学位：東京大学博士（工学）
前職：日本学術振興会特別研究員

1999/4/1 バイオメカニクス分野助手
2001/7/16 （工学系研究科航空宇宙工学専攻講師）
2004/3/16 宇宙環境システム学分野講師
2006/11/16 宇宙環境システム学分野助教授
2007/4/1 宇宙環境システム学分野准教授

安田 浩 Hiroshi Yasuda

学位：東京大学博士（工学）
前職：NTT 情報通信研究所所長

1997/4/1 科学技術開発法分野教授
1998/4/1 国際・産学共同研究センター教授
2003/4/1 ～ 2004/3/31 国際・産学共同研究センター長
2007/4/1 転出（東京電機大学未来科学部情報メディア学科教授）

柳田 博明 Hiroaki Yanagida

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学部工業化学科教授

1987/4/1 化学認識機能材料分野教授
1989/4/1 ～ 1991/3/31 センター長
1991/4/1 （工学部工業化学科教授）
1991/4/1 ～ 1992/3/31 化学認識機能材料分野教授に併任
1992/4/1 インテリジェント材料学講座（先端学際工学専攻）教授
1996/4/1 転出（（財）ファインセラミックスセンター専務理事・試験研究所長）

矢野 和義 Kazuyoshi Yano

学位：東京大学博士（工学）
前職：日本学術振興会特別研究員

1993/8/1 バイオセンサー分野助手
2001/10/1 分子生物医学分野講師
2002/4/1 転出（東京工科大学助教授）

山下 真司 Shinji Yamashita

学位：東京大学大学院博士（工学）

1991/2/16 光デバイス分野助手
1994/4/1 光デバイス分野講師
1995/4/16 転出（工学部工学研究科電気工学専攻講師）

山下 俊 Takashi Yamashita

学位：東京大学博士（工学）

1988/4/1 分子情報機能材料分野助手
1993/8/1 分子情報機能材料分野講師
1994/12/1 転出（工学部講師）

山本 順寛 Yorihiro Yamamoto

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学部助教授

1994/12/1 分子情報機能材料分野助教授
1996/4/1 生命反応化学分野助教授
2000/4/1 転出（工学系研究科化学生命工学専攻助教授）

山本 良一 Ryoichi Yamamoto

学位：東京大学博士（工学）
前職：工学部教授

1989/9/1 耐環境材料分野教授
1992/1/1 転出（生産技術研究所教授）
1992/1/1 ～ 1992/9/30 耐環境材料分野教授に併任

横山 憲二 Kenji Yokoyama

学位：東京工業大学博士（工学）

1992/4/1 バイオセンサー分野助手
1993/4/1 バイオセンサー分野講師
1994/4/1 転出（北陸先端科学技術大学院大学材料科学研究科助教授）

吉川 弘之 Hiroyuki Yoshikawa

学位：東京大学博士（工学）

1992/4/1 ～ 1993/3/31 ファクトリーオートメーション分野
教授に併任（本務：工学系研究科）

渡邊 克巳 Katsumi Watanabe

学位：カリフォルニア工科大学博士
前職：(独)産業技術総合研究所人間福祉医工学研究部門研究員

2006/4/1 認知科学分野助教授
2007/4/1 認知科学分野准教授

渡部 俊也 Toshiya Watanabe

学位：東京工業大学博士（工学）
前職：東陶機器株式会社基礎研究所主席研究主幹

1998/4/1 情報機能材料分野客員教授
2001/4/1 資源・エネルギー・環境政策分野教授
2006/4/1 国際・産学共同研究センター教授
2006/4/1 ～ 国際・産学共同研究センター長

資料2-2-2 交付金助手・助教一覧

本資料は、運営費交付金によって雇用されている先端研所属の助手（2007年度以降は原則として助教）の一覧である。関連組織に所属している場合は、データベースに記録されている以外は掲載していない。在籍年度は4月から始まる会計年度で示している。

名前	読み	在籍年度	分野等
青木 輝勝	アオキ テルマサ	1998～2001	科学技術開発法
秋光 淳生	アキミツ トシオ	2000～2002	情報デバイス
秋山 英文	アキヤマ ヒデフミ	1993～1996	極小デバイス
池田 浩治	イケダ コウジ	1993～1994	高信頼性材料
池袋 一典	イケブクロ カズノリ	1993～1995	バイオセンサー
石田 悟己	イシダ サトミ	1998～	極小デバイス
磯山 隆	イソヤマ タカシ	1998～2001	人工生体機構
一ノ瀬 俊明	イチノセ トシアキ	1993～1995	都市環境システム
伊藤 寿浩	イトウ トシヒロ	1994～1995	微小製造科学
稲田 善信	イナダ ヨシノブ	1998～2002	生命知能システム
乾 正知	イヌイ マサトモ	1988～1990	ファクトリーオートメーション
井上 健司	イノウエ ケンジ	2003～2005	分子生物学
今井 雅	イマイ マサシ	2000～2005	情報物理システム
井山 尚史	イヤマ ヒサシ	1988～1989	ロボティクス材料
入江 寛	イリエ ヒロシ	2001～2004	化学認識機能材料
上殿 明良	ウエドノ アキラ	1992	化学認識機能材料
宇佐美 徳隆	ウサミ ノリタカ	1994～1999	フォトニクス材料
浦野 明	ウラノ アキラ	1996～1997	都市環境システム
榎 学	エノキ マナブ	1988～1990	ロボティクス材料
大越 慎一	オオコシ シンイチ	1997～1999	化学認識機能材料
小野 奈穂子	オノ ナホコ	2001～2003	知的財産法
片岡 憲一	カタオカ ケンイチ	2001～2004	微小製造科学
加藤 一弘	カトウ カズヒロ	1997～2006	光デバイス
金子 丈夫	カネコ タケオ	1991	耐環境材料
神山 和人	カミヤマ カズト	2006～	情報物理システム
川村 一郎	カワムラ イチロウ	1996～1997	科学技術と社会的価値
岸 真人	キシ マサト	1988～1990	高速電子機能デバイス
北 和之	キタ カズユキ	2000～2002	地球大気環境科学
北川 学	キタガワ マナブ	1990～2000	高速電子機能デバイス
金 炳男	キム ビョンナム	1995～1997	高信頼性材料
桑子 雅史	クワコ マサシ	1997～1999	情報物理システム
黄 晋二	コウ シンジ	2000	フォトニクス材料
齋藤 逸郎	サイトウ イツロウ	2002～2006	人工生体機構
佐々木 元	ササキ ゲン	1992～1993	ファクトリーオートメーション、微小製造科学
佐々木 聡	ササキ サトシ	1994～2001	バイオセンサー
柴田 克成	シバタ カツナリ	1993～1996	高速電子機能デバイス
清水 大雅	シミズ ヒロマサ	2002～2006	情報デバイス
徐 陽	ジョ ヨウ	2000～2001	高信頼性材料
志波 光晴	シワ ミツハル	1992～1994	高信頼性材料
菅 正史	スガ マサシ	2005～	都市環境システム
鈴木 真也	スズキ シンヤ	2005～	化学認識機能材料
鈴木 正康	スズキ マサヤス	1989～1991	バイオセンサー
隅藏 康一	スミクラ コウイチ	1998～2001	知的財産法
瀬田 史彦	セタ フミヒコ	1998～2004	都市環境システム
早出 広司	ソウデ コウジ	1988～1989	バイオセンサー
高橋 裕	タカハシ ユタカ	1991	ファクトリーオートメーション
多久島 裕一	タクシマ ユウイチ	1995～1996	光デバイス
竹川 暢之	タケガワ ノブユキ	2002～2003	地球大気環境科学
忠末 裕美	タダスエ ヒロミ	1987～1990	都市環境システム
立澤 清彦	タツザワ キヨヒコ	1988～1990	耐環境材料
田中 克明	タナカ カツアキ	2003～	知能工学
田中 秀幸	タナカ ヒデユキ	2003～	宇宙環境システム学

田丸 博晴	タマル ヒロハル	2001～	フォトニクス材料
鎮西 恒雄	チンゼイ ツネオ	1987～1994	生体計測
津田 浩	ツダ ヒロシ	1994	高信頼性材料
堤 修一	ツツミ シュウイチ	2005～	ゲノムサイエンス
鳥越 一平	トリゴエ イツペイ	1988～1989	物理情報変換デバイス
中崎 城太郎	ナカザキ ジョウタロウ	2006～	エネルギー環境
中島 秀人	ナカジマ ヒデト	1988～1994	科学技術倫理
永宗 靖	ナガムネ ヤスシ	1989～1995	極小デバイス
中村 征樹	ナカムラ マサキ	2002～2005	科学技術論
中村 吉伸	ナカムラ ヨシノブ	1987～1991	化学認識機能材料
仲矢 長次	ナカヤ チョウジ	1988～1998	バイオメカニクス
西村 由希子	ニシムラ ユキコ	2007～	知的財産法
野口 範子	ノグチ ノリコ	1993～2001	生命反応化学、分子情報機能材料
野口 裕久	ノグチ ヒロヒサ	1989～1993	巨大システム
野田 武司	ノダ タケシ	1996～1998	極小デバイス
長谷川 誠	ハセガワ マコト	2004～2005	高信頼性材料
浜窪 隆雄	ハマクボ タカオ	1996	科学技術と社会的価値
肥後 昭男	ヒゴ アキオ	2007～	情報デバイス
筆宝 義隆	ヒツボウ ヨシタカ	2002～2004	ゲノムサイエンス
平嶋 竜太	ヒラシマ リュウタ	1998	科学技術財産法
廣川 淳	ヒロカワ ジュン	1994～2000	地球環境物質科学
廣瀬 明	ヒロセ アキラ	1987～1990	光デバイス
深津 晋	フカツ ススム	1987～1994	フォトニクス材料
藤森 智行	フジモリ トモユキ	2006	製造情報システム
Kenneth Gordon PECHTER	ペクター、ケネス ゴードン	1994～1995	科学技術産業相関
細田 奈麻絵（直江）	ホソダ ナオエ	1995～2000	微小製造科学
前田 太郎	マエダ タロウ	1992～1994	物理情報変換デバイス
増田 一之	マスダ カズユキ	2006～	システム生物医学
松浦 弘幸	マツウラ ヒロユキ	1994～1997	人工生体機構
松岡 秀雄	マツオカ ヒデオ	1987～1991	科学技術産業相関
松野 寿生	マツノ ヒサオ	2003～	バイオナノマテリアル
松村 功德	マツムラ カツノリ	2006～	高信頼性材料
松村 茂	マツムラ シゲル	1991～1992	都市環境システム
道川 隆士	ミチカワ タカシ	2006～	製造情報システム
宮崎 英樹	ミヤザキ ヒデキ	1993～1998	巨大システム、生命知能システム
宮崎 雄三	ミヤザキ ユウゾウ	2003～	地球大気環境科学
武藤 範雄	ムトウ ノリオ	1990～1991	化学認識機能材料
村上 裕	ムラカミ ヒロシ	2003～	ケミカル・バイオテクノロジー
本山 澄夫	モトヤマ スミオ	1988～2003	情報技術社会相関
森 武俊	モリ タケトシ	1995～1997	生命知能システム
森 久史	モリ ヒサシ	1998	高信頼性材料
矢入 健久	ヤイリ タケヒサ	1999～2001	知能工学
柳田 雅明	ヤナギダ マサアキ	1993～1994	情報技術社会相関
柳田 康幸	ヤナギダ ヤスユキ	1990～1996	情報物理システム、物理情報変換デバイス
矢野 和義	ヤノ カズヨシ	1993～2001	バイオセンサー
山内 平行	ヤマウチ ヒロユキ	1988～1994	知識処理・伝達システム
山下 真司	ヤマシタ シンジ	1990～1993	光デバイス
山下 俊	ヤマシタ タカシ	1988～1993	分子情報機能材料
鎗目 雅	ヤリメ マサル	2004	次世代電子商取引
横山 憲二	ヨコヤマ ケンジ	1992	バイオセンサー
吉田 直哉	ヨシダ ナオヤ	2003～	資源・エネルギー・環境政策
李 洪玲	リ コウレイ	1993～1997	化学認識機能材料
鷺野 由紀	ワシノ ユキ	1992～	科学技術産業相関、所長室

資料2-2-3 客員教員一覧

本資料は、先端研に所属した客員教授、客員助教授（2007年度以降は准教授）の一覧である。寄付研究部門に所属した教員については第3節の資料2-3-2を参照されたい。客員助教授の名称でデータベースに登録されている外国人研究員が存在したが、正規の客員助教授としての手続き等を経っていないようなので、本表には記載しなかった。任期中、先端経済工学研究センターに所属していた時期がある場合は、分野名のあとに※印を付している。

名前	国籍	就任年月日	退任年月日	身分	分野名
尾島 俊雄	日本	1988年6月16日	1992年3月31日	客員教授	システム・テロテクノロジー
片山 良史	〃	〃	1991年3月31日	〃	新レーザーデバイス
中岡 哲郎	〃	〃	1989年3月31日	〃	技術アセスメント
松本 博志	〃	〃	1992年3月31日	〃	界面機能材料
森谷 正規	〃	1989年4月1日	1991年3月31日	〃	技術アセスメント
狩野 覚	〃	1991年4月1日	1993年3月31日	〃	新レーザーデバイス
斎藤 優	〃	〃	〃	〃	技術アセスメント
餌取 章男	〃	1992年4月1日	〃	〃	システム・テロテクノロジー
		1993年4月1日	1994年3月31日		技術アセスメント
渕 一博	〃	1992年4月1日	1993年3月31日	〃	情報機能材料
吉川 敏一	〃	1993年4月1日	1995年3月31日	〃	情報機能材料
佐藤 壽芳	〃	1993年11月1日	1994年3月31日	〃	システム・テロテクノロジー
飯塚 哲哉	〃	1993年11月16日	1995年3月31日	〃	新レーザーデバイス
森 健一	〃	1994年4月1日	〃	〃	システム・テロテクノロジー
薬師寺 泰蔵	〃	〃	1996年3月31日	〃	技術アセスメント
立花 隆	〃	1995年4月1日	〃	〃	情報機能材料
		1996年4月1日	1998年3月31日		インタラクティブ・システム
中村 桂子	〃	1995年4月1日	1996年3月31日	〃	インタラクティブ・システム
安念 潤司	〃	1996年4月1日	1997年3月31日	〃	技術アセスメント
		1997年4月1日	1998年12月31日		技術移転法・技術移転政策
中川 清和	〃	1996年4月1日	1998年3月31日	〃	新レーザーデバイス
平石 次郎	〃	〃	〃	〃	情報機能材料
眞壽田 順啓	〃	1997年9月1日	1998年12月31日	〃	技術開発政策
小川 是	〃	1997年10月1日	2000年3月31日	〃	技術アセスメント
渡部 俊也	〃	1998年4月1日	2001年3月31日	〃	情報機能材料
米本 昌平	〃	1998年6月1日	2001年5月31日	〃	新レーザーデバイス
林 勝彦	〃	1998年9月1日	2001年8月31日	〃	インタラクティブ・システム
清水 初志	〃	1999年1月1日	2000年12月31日	〃	技術移転法・技術移転政策
吉田 大輔	〃	1999年4月1日	2001年3月31日	〃	技術開発政策
手塚 集	〃	1999年9月1日	〃	〃	応用金融工学 ※
相田 義明	〃	2000年4月1日	2001年9月30日	〃	技術開発政策
島田 晴雄	〃	2000年6月15日	2003年3月31日	〃	技術アセスメント
近藤 勝義	〃	2000年11月16日	2001年3月31日	客員助教授	次世代電子商取引 ※
		2001年4月1日	2002年3月31日		情報機能材料
中山 一郎	〃	2001年5月16日	〃	〃	技術移転法・技術移転政策
		2002年4月1日	2003年3月31日		インタラクティブ・システム
鳥井 弘之	〃	2002年1月1日	2002年3月31日	客員教授	インタラクティブ・システム
		2002年4月1日	2005年3月31日		技術開発政策
三宅 なほみ	〃	2002年2月1日	〃	〃	新レーザーデバイス
大野 克人	〃	2002年3月1日	2004年3月31日	〃	先端金融工学 ※
堺屋 太一	〃	2002年4月1日	2005年3月31日	〃	技術移転法・技術移転政策
澤井 敬史	〃	2002年8月1日	〃	〃	応用電子商取引 ※
向井 敏司	〃	2003年3月1日	2004年3月31日	客員助教授	情報機能材料
近藤 正晃ジェームス	〃	2003年4月1日	2004年2月15日	〃	インタラクティブ・システム
高柳 英明	〃	2003年4月16日	2006年3月31日	客員教授	技術アセスメント
黒川 清	〃	2004年2月16日	2007年3月31日	〃	インタラクティブ・システム
葛西 敬之	〃	2005年4月1日	在職中	〃	鉄道事業と経営

植村 昭三	日本	2005年6月16日	2007年3月31日	客員教授	応用電子商取引（国際知財政策）
劉 玉付	中華人民 共和国	2005年7月1日	在職中	客員助教授	高信頼性材料
小泉 英明	日本	2006年4月1日	〃	客員教授	脳情報システム
中野 泰志	〃	〃	〃	〃	バリアフリー
山口 光恒	〃	〃	〃	〃	環境経済学
水野 忠恒	〃	2006年5月1日	〃	〃	租税法
牧原 出	〃	2007年1月1日	〃	〃	オーラル・ヒストリーと公共政策研究
北野 宏明	〃	2007年4月1日	〃	〃	システム・バイオロジー

※ 先端経済工学研究センター所属（2004年3月以前）。

資料2-2-4 特任教員一覧

本資料は、先端研に所属した特任教授、特任助教授、特任助手の一覧である。2007年度在籍している場合は、特任助教授、特任助手で採用されている場合でも、特任准教授、特任助教と表記した。在籍年度は4月から始まる会計年度で示している。

名前	読み	身分	在籍年度	プロジェクト・分野・担当等
青木 画奈	アオキ カナ	特任助手	2002	ナノ光電子デバイスに関する研究
赤羽 貴	アカハネ タカシ	特任教授	2002～2006	知的財産法
阿川 尚之	アガワ ナオユキ	〃	2005～	情報文化社会
浅場 浩	アサバ ヒロシ	特任助手	2002～2004	システム生物医学
穴井 元暢	アナイ モトノブ	特任准教授	2006～	膜シグナル（メンブレントラフィック）
新井 賢一	アライ ケンイチ	特任教授	2005～	システム生物医学
荒井 壽光	アライ ヒサミツ	〃	2002	知的創造マネジメント専門職育成ユニット
安藤 規泰	アンドウ ノリヤス	特任助教	2006～	生命知能システム
池田 修司	イケダ シュウジ	特任助手	2004～2005	新規核酸材料の開発に関する研究
伊澤 久美	イザワ クミ	〃	2004	知的創造マネジメント専門職育成ユニット
石川 俊平	イシカワ シュンペイ	〃	2004～2006	ゲノムサイエンス
市村 公一	イチムラ コウイチ	特任講師	2004～2006	医療政策人材養成
井手口 範男	イデグチ ノリオ	特任助手	2005	バリアフリー
伊藤 憲二	イトウ ケンジ	〃	2002～2005	科学技術論
伊藤 順司	イトウ ジュンジ	特任教授	2005～2006	資源・エネルギー・環境政策
伊藤 学	イトウ マナブ	特任助手	2005～2006	応用情報工学
井上 貴文	イノウエ タカフミ	〃	2005	情報文化社会
井原 茂男	イハラ シゲオ	特任教授	2002～	ダイナミカルバイオインフォマティクス、マイクロアレイ解析、動的システム生物学に関する研究
今井 雅	イマイ マサシ	特任准教授	2005～	情報物理システム
岩井 俊雄	イワイ トシオ	特任教授	2002	五感情報通信に関する研究
岩成 宏子	イワナリ ヒロコ	特任助教	2007～	システム生物医学
John Pyne WALSH	ウォルシュ、ジョン	特任教授	2002	大学による新産業創造
内田 聡	ウチダ サトシ	特任准教授	2006～	エネルギー環境
梅田 純子	ウメダ ジュンコ	特任助手	2004～2005	環境低負荷型マグネシウム・ガラス同時リサイクル
江里口 正純	エリグチ マサズミ	特任教授	2002～2006	癌転移メカニズム、癌転移抑制
大崎 壽	オオサキ ヒサシ	〃	2002～2006	資源・エネルギー・環境政策、日欧ケミカルナノテクノロジー
大塚 一路	オオツカ カズミチ	特任助手	2005～2006	先端金融工学
岡田 昌史	オカダ マサフミ	特任講師	2005～2006	医療政策人材養成
小川 直毅	オガワ ナオキ	特任助教	2006～	フォトニクス材料
片山 英二	カタヤマ エイジ	特任教授	2002～2006	知的財産法、知的創造マネジメント専門職育成ユニット
片山 健介	カタヤマ ケンスケ	特任助手	2004～2005	都市環境システム
金崎 弘文	カナザキ ヒロフミ	特任助教	2006～	宇宙環境システム学

金田 篤志	カネダ アツシ	特任准教授	2006～	ゲノムサイエンス
上條 由紀子	カミジョウ ユキコ	特任教授	2004	知的創造マネジメント専門職育成ユニット
嘉門 啓太	カモン ケイタ	特任助手	2006	医療政策人材養成
荻田 知則	カリタ トモノリ	〃	2004	バリアフリー
川村 猛	カワムラ タケシ	特任助教	2006～	分子生物医学
姜 澤鎮	カン テクジン	〃	2006～	ケミカル・バイオテクノロジー
神野 智世子	カンノ チヨコ	特任准教授	2004～	推進室
北村 雅季	キタムラ マサトシ	特任助手	2002～2005	極小デバイス、動的システム生物学に関する研究
		特任助教	2006	極小デバイス
KIM Eui Seok	キム エイソク	特任助手	2002	情報物理システム
葛谷 明紀	クズヤ アキノリ	特任助教	2007	生命反応化学
久保 貴哉	クボ タカヤ	特任助教	2006	エネルギー環境
久保 友香	クボ ユカ	特任助教	2007～	社会共創
熊倉 嘉貴	クマクラ ヨシタカ	〃	2005～	分子生物医学
黒石 真史	クロイシ マサフミ	特任教授	2002～2006	資源・エネルギー・環境政策、知的創造マネジメント専門職育成ユニット
黒木 速人	クロキ ハヤト	特任助手	2002～2005	生命情報ネットワーク、五感情報通信に関する研究
黒須 卓	クロス タク	特任准教授	2006～	安全・安心な社会を実現する科学技術人材養成
葛 錫金	ゲ シジン	特任助手	2004	ゲノムサイエンス
小泉 直樹	コイズミ ナオキ	特任教授	2003～2004	知的創造マネジメント専門職育成ユニット
鯉渕 賢	コイブチ サトシ	特任助手	2002～2003	先端金融工学
上妻 史郎	コウヅマ シロウ	〃	2004	経済工学
児玉 龍彦	コダマ タツヒコ	特任教授	2002～2004	システム生物医学、動的システム生物学に関する研究
小林 俊哉	コバヤシ トシヤ	特任助教	2002～2004	インテリジェント材料学、先端科学技術研究戦略
駒崎 雄一	コマザキ ユウイチ	〃	2003～2005	メガシティにおけるオキシダントの光化学制御戦略に関する研究
近藤 勝義	コンドウ カツヨシ	特任助教	2002～2005	環境低負荷型マグネシウム・ガラス同時リサイクル
		特任教授	2005	環境低負荷型マグネシウム・ガラス同時リサイクル
近藤 武夫	コンドウ タケオ	特任助教	2005～	バリアフリー
近藤 正章	コンドウ マサアキ	特任助手	2004～2006	情報物理システム
		特任准教授	2006～	情報物理システム
近藤 正晃 ジェームス	コンドウ マサアキラ ジェームス	特任助教	2004～2006	医療政策人材養成
齋藤 逸郎	サイトウ イツロウ	特任助教	2007～	人工生体機構
齋藤 寛	サイトウ ヒロシ	特任助手	2003	情報物理システム
酒井 寿郎	サカイ ジュロウ	特任教授	2002～	システム生物医学、代謝・内分泌システム、動的システム生物学に関する研究
先瀨 俊子	サキハマ トシコ	特任准教授	2002～	バキュロウィルスを用いた機能的蛋白質の大量発現法、プロテインディスプレイ、動的システム生物学に関する研究
塩澤 一洋	シオザワ カズヒロ	特任助教	2003～2006	知的財産法、知的創造マネジメント専門職育成ユニット
鳴（日野） 成実	シギ（ヒノ） ナルミ	特任助教	2007～	生命反応化学
柴崎 芳一	シバサキ ヨシカズ	特任教授	2002～2006	システム生物医学、動的システム生物学に関する研究、膜シグナル（メンブレントラフィック）
清水 唯一朗	シミズ ユウイチロウ	特任助手	2003～2006	安全・安心な社会を実現する科学技術人材養成、情報文化社会
徐 岩	ジョ ガン	特任助教	2007～	生命反応化学
申 吉浩	シン ヨシヒロ	特任助手	2005～2006	応用情報工学
末吉 互	スエヨシ ワタル	特任教授	2002～2006	資源・エネルギー・環境政策
菅 正史	スガ マサシ	特任助手	2005	都市環境システム
菅原 琢	スガワラ タク	特任准教授	2006～	情報文化社会
杉山 暁	スギヤマ アキラ	特任助手	2002	システム生物医学
杉山 慶子	スギヤマ ケイコ	〃	2005～2006	知的財産法、知的創造マネジメント専門職育成ユニット

鈴木 邦子	スズキ クニコ	特任助教授	2003～2006	安全・安心な社会を実現する科学技術人材養成、情報文化社会、知的財産法
鈴木 潤	スズキ ジュン	特任助手	2004	大学による新産業創造
		特任教授	2005	大学による新産業創造
鈴木 真也	スズキ シンヤ	特任助手	2004	化学認識機能材料
鈴木 康広	スズキ ヤスヒロ	特任助教	2002～	生命知能システム
砂田 香矢乃	スナダ カヤノ	特任准教授	2005～	インテリジェント材料学
住田 雅樹	スミタ マサキ	特任助手	2004～2005	環境低負荷型マグネシウム・ガラス同時リサイクル
諏訪 嘉宏	スワ ヨシヒロ	〃	2002～2004	ヒューマン・モデルの構築とそのリハビリ医療・外科手術補助への応用
妹尾 堅一郎	セノオ ケンイチロウ	特任教授	2002～2006	知的創造マネジメント専門職育成ユニット
妹尾 孝憲	セノオ タカノリ	特任助手	2005～2006	応用情報工学
鷹岡 澄子	タカオカ スミコ	〃	2002～2003	知的財産法
高岡 慎	タカオカ マコト	〃	2004～2005	先端金融工学
高橋 洋	タカハシ ヒロシ	特任助教	2007～	情報文化社会
高濱 孝一	タカハマ コウイチ	特任教授	2007～	
高部 稚子	タカベ ワカコ	特任助教	2006～	システム生物医学
瀧内 冬夫	タキウチ フユオ	特任助手	2004	知的財産法
武田 健二	タケダ ケンジ	特任教授	2003～2006	資源・エネルギー・環境政策、知的創造マネジメント専門職育成ユニット
武田 徹	タケダ トオル	〃	2003～2006	安全・安心な社会を実現する科学技術人材養成、情報文化社会
立本 博文	タツモト ヒロフミ	特任助手	2002～2003	知的創造マネジメント専門職育成ユニット
田中 十志也	タナカ トシヤ	〃	2004～2005	代謝・内分泌システム
		特任准教授	2005～	代謝・内分泌システム
田淵 一郎	タブチ イチロウ	特任助手	2004	ケミカル・バイオテクノロジー
玉谷 卓也	タマタニ タクヤ	特任助教授	2002～2006	次世代知的財産戦略研究ユニット
王 懐成	ダラボン ケオ	特任助手	2004～2005	経済工学
全 英美	チョン ヨンミ	特任助教	2007～	バリアフリー
陳 文	チン ボン	特任助手	2004～2005	生命反応化学
塚越 雅信	ツカゴシ マサノブ	特任講師	2002～2006	資源・エネルギー・環境政策、知的創造マネジメント専門職育成ユニット
都筑 律子	ツヅキ リツコ	特任助手	2002～2005	環境低負荷型マグネシウム・ガラス同時リサイクル
堤 修一	ツツミ シュウイチ	〃	2002～2004	ゲノムサイエンス、システム生物医学
坪内 南	ツボウチ ミナミ	〃	2003～2004	知的創造マネジメント専門職育成ユニット
坪見 博之	ツボミ ヒロユキ	特任助教	2007～	認知科学
津村 重彰	ツムラ シゲアキ	特任助教授	2004～2005	先端科学技術研究戦略
手塚 洋輔	テヅカ ヨウスケ	特任助教	2004～	安全・安心な社会を実現する科学技術人材養成、情報文化社会
杜 文博	ドゥ ウェンボ	特任助手	2002～2003	環境低負荷型マグネシウム・ガラス同時リサイクル
内藤 祐介	ナイトウ ユウスケ	〃	2004～2005	経済工学
中岡 俊裕	ナカオカ トシヒロ	〃	2002～2005	ナノ光電子デバイスに関する研究、極小デバイス
中小路 久美代	ナカコウジ クミヨ	特任教授	2002～2006	知識創造活用サイクルの変革に関する研究、知識創造研究室、動的システム生物学に関する研究
中崎 城太郎	ナカザキ ジョウタロウ	特任助手	2006	エネルギー環境
長沢 幸男	ナガサワ ユキオ	特任教授	2003～2006	資源・エネルギー・環境政策、知的創造マネジメント専門職育成ユニット
長瀬 修	ナガセ オサム	特任助教授	2002～2005	バリアフリー、人間本位の情報応用バリアフリー空間の構築に関する研究
中田 朋子	ナカタ トモコ	特任助手	2002～2004	資源・エネルギー・環境政策、知的創造マネジメント専門職育成ユニット
中野 (金澤) 聡子	ナカノ (カナザワ) サトコ	〃	2001～2004	バリアフリー、人間本位の情報応用バリアフリー空間の構築に関する研究
中野 泰志	ナカノ ヤスシ	特任教授	2003～2005	バリアフリー、人間本位の情報応用バリアフリー空間の構築に関する研究
中村 一彦	ナカムラ カズヒコ	特任助手	2002～2005	アジア・エコデザイン戦略に関する研究
中邑 賢龍	ナカムラ ケンリュウ	特任教授	2005～	学際バリアフリー
中村 真帆	ナカムラ マホ	特任助手	2005	知的財産法

西川 (鈴木) 直子	ニシカワ (スズキ)	特任助教	2006～	ダイナミカルバイオインフォマティクス
仁科 博道	ニシナ ヒロミチ	特任助手	2004	システム生物医学
西部 啓介	ニシベ ケイスケ	〃	2004	知的創造マネジメント専門職育成ユニット
西村 由希子	ニシムラ ユキコ	〃	2002～2003	知的財産法
西山 敏樹	ニシヤマ トシキ	〃	2003	知的創造マネジメント専門職育成ユニット
布川 清彦	ヌノカワ キヨヒコ	〃	2004～2005	バリアフリー
野口 範子	ノグチ ノリコ	特任助教授	2002～2004	システム生物医学、動的システム生物学に関する研究
		特任教授	2005～	未来創薬
野澤 千絵	ノザワ チエ	特任助手	2002～2005	先端まちづくり研究、都市環境システム
信友 浩一	ノブトモ コウイチ	特任教授	2005～2006	医療政策人材養成
野村 仁	ノムラ ヒトシ	〃	2003～2005	システム生物医学
萩原 豪	ハギワラ ゴウ	特任助手	2004	知的財産法
埴岡 健一	ハニオカ ケンイチ	特任助教授	2004～2006	医療政策人材養成
馬場 敏幸	ハバ トシユキ	特任助手	2002～2003	先端科学技術研究戦略
潘 小悦	ハン ショウエツ	〃	2004	マイクロアレイ解析
久 智行	ヒサ トモユキ	〃	2002～2003	知的財産法
		特任講師	2003～2006	知的財産法
檜山 敦	ヒヤマ アツシ	特任助手	2006	生命知能システム
平尾 一郎	ヒラオ イチロウ	特任教授	2002～2005	新規核酸材料の開発に関する研究
平田 裕一	ヒラタ ユウイチ	特任准教授	2005～	未来創薬研究所
廣川 淳	ヒロカワ ジュン	特任助教授	2002	メガシティにおけるオキシダントの光化学制御戦略に関する研究
廣瀬 弥生	ヒロセ ヤヨイ	特任助教授	2004～2005	AcTeB
福原 哲哉	フクハラ テツヤ	特任助手	2004	知的創造マネジメント専門職育成ユニット
富士岡 篤臣	フジオカ シゲオミ	〃	2003～2005	情報文化社会
藤沢 潤一	フジサワ ジュンイチ	特任助教	2006～	エネルギー環境
藤本 淳	フジモト ジュン	特任教授	2002～2006	アジア・エコデザイン戦略に関する研究
藤森 智行	フジモリ トモユキ	特任助手	2005	製造情報システム
星加 良司	ホシカ リョウジ	特任助教	2007～	バリアフリー
堀内 恵子	ホリウチ ケイコ	〃	2007～	システム生物医学
Peter John MARCOTULLIO	マーコトゥリオ、ピーター J	特任教授	2002～2005	先端まちづくり研究、都市環境システム
増田 一之	マズダ カズユキ	特任助手	2002～2005	システム生物医学、動的システム生物学に関する研究
榊田 祥子	マズダ サチコ	〃	2006	知的財産法
松村 功德	マツムラ カツノリ	〃	2006	高信頼性材料
三浦 英和	ミウラ ヒデカズ	特任助教	2007～	人工生体機構
三井 雅雄	ミツイ ツネオ	特任助手	2002～2005	新規核酸材料の開発に関する研究
南 敬	ミナミ タカシ	特任准教授	2002～	システム生物医学
三好 元介	ミヨシ モトスケ	特任教授	2002～2006	客員：親指サイズ電子顕微鏡の研究・開発
村石 信二	ムライシ シンジ	特任助手	2002～2003	ヒューマン・モデルの構築とそのリハビリ医療・外科手術補助への応用
村田 拓司	ムラタ タクジ	特任助手	2002～2005	バリアフリー、人間本位の情報応用バリアフリー空間の構築に関する研究
望月 康弘	モチヅキ ヤスヒロ	特任准教授	2005～	システム生物医学
		特任助手	2005	システム生物医学
森口 尚史	モリグチ ヒサシ	特任助教授	2002～2005	次世代的知的財産戦略研究ユニット、先端医療システム研究
		特任教授	2006～	システム生物医学
矢崎 敬人	ヤサキ ヨシヒト	特任助手	2002～2005	大学による新産業創造
保井 (楡井) 美樹	ヤスイ (ニレイ) ミキ	〃	2002～2003	都市環境システム
安田 聡子	ヤスダ サトコ	特任助手	2004～2005	先端科学技術研究戦略
柳衛 宏宣	ヤナギエ ヒロノブ	特任助教授	2002～2006	癌転移抑制
山内 明	ヤマウチ アキラ	特任助手	2003～2006	知的財産法
山口 洋一郎	ヤマグチ ヨウイチロウ	特任教授	2004～2006	知的財産法
山崎 蘭加	ヤマザキ マユカ	特任助手	2002	知的創造マネジメント専門職育成ユニット

山下 淳	ヤマシタ ジュン	特任助手	2002～2004	五感情報通信に関する研究
山田 和明	ヤマダ カズアキ	〃	2002～2005	知識創造活用サイクルの変革に関する研究、知識創造研究室
山本 恭裕	ヤマモト ヤスヒロ	特任准教授	2004～	知能工学
山本 陽治	ヤマモト ヨウジ	特任助手	2004	生命反応化学
結城 貴子	ユウキ タカコ	〃	2003～2004	資源・エネルギー・環境政策
横井 健司	ヨコイ ケンジ	〃	2006	認知科学
吉田 直哉	ヨシダ ナオヤ	〃	2002	資源・エネルギー・環境政策
米山 隆一	ヨネヤマ リュウイチ	特任講師	2005～2006	医療政策人材養成
Patrick Crawford REID	レイド、パトリック	特任助教授	2004～2006	システム生物医学
和田 ちひろ	ワダ チヒロ	特任助手	2004～2005	医療政策人材養成
渡邊 克之	ワタナベ カツユキ	〃	2002	ナノ光電子デバイスに関する研究

第3節 寄付研究部門

本節では、先端研における寄付研究部門の発足、発展を解説する。寄付研究部門はその発足から、「国際性」を確保するための重要な位置を占めていた。まず、寄付研究部門の概要を述べたのち、その設立の背景、そして開設の経緯と発展について述べる⁴⁾。

1. 概 要

寄付研究部門とは、民間等からの寄付による基金をもって研究部門を開設し、大学の主体性のもとで教育・研究活動をおこなうものである。国立大学では、従来このような寄付研究部門、寄付講座を持つことは認められていなかったが、臨時教育審議会の答申に基づき、文科省が1987年5月の国立学校設置法の規則を改めたことにより、開設が可能となった。先端研は設立前から寄付研究部門の開設が計画され、日本の国立大学で初めての寄付研究部門、コンピュータ・通信研究分野をNECの寄付のもと開設した(1987年10月22日)⁵⁾。その後、先端研ではこれまでに計15の寄付研究部門が開催され、主として外国人の教授、助教授、研究員を招き、既存研究分野の活性化、新規研究分野の発展、大学院教育活動の充実化等に役立てられている。

2. 開設の背景

寄付研究部門が設立された背景には、当時日本の大学が抱えていた二つの問題点がある。一つは、日本の大学・研究所が招く外国人学者の数が、諸外国の大学・研究所に招かれる日本人学者に比べて格段に少ない、ということであり、もう一つは、日本の産業界は、研究助成金の寄付先として日本の大学よりも外国の大学を選ぶ、ということであった⁶⁾。たとえば、1982年のデータでは日本の大学への寄付は158億円であるのに対し、アメリカ合衆国の大学へは330億円に上るという著しい不均衡に陥っていた⁷⁾。

この状況に対する先端研の答えが、寄付研究部門の開設であった。寄付研究部門においては、客員教授は原則として外国人とされ、客員助教授も外国人、教授の希望によっては若い優秀な日本人とされた。これによって前述の二つの問題点を一挙に解決し、先端研の掲げる4つのモットーの一つである「国際性」を実現させることを目指したのである。

また、前身である工学部附属境界領域研究施設(境界研)の持っていた講座数が、横断的な研究所

4) 本節の内容は、『先端研紀要』(Vo.1、1988年)に依拠している。

5) なお、学部設置される「寄付講座」としては、1987年10月1日に安田海上火災の寄付により設置された、九州大学の保険学講座が初である(『朝日新聞』1987年10月9日夕刊)。

6) 『AERA』(1988年6月28日号、朝日新聞社)に同趣旨の大越孝敬センター長によるコメントが掲載されている。

7) 那野比古『東大先端研―「世界」を狙う「日本」の頭脳』(NTT出版、1991年)の102ページ参照。

として必ずしも十分ではなかった、という事情もあった。境界研の定員を引き継ぐ先端研が、分野数（講座数）を増やすのは国立大学であるという制約上難しく、寄付研究部門ならばよいのではないか、という判断があった。寄付研究部門であれば待遇や住居の面で融通がきくため、外国人を招く際のハードルも下がることとなる⁸⁾。

3. 開設をめぐる経緯

文部省への働きかけを経て、1987年5月16日には国立学校設置法規則、および大学共同利用機関組織運営規則の一部を改正する文部省令が、先端研開所日の1987年5月21日には文部省通達『国立大学等の寄付制度及び寄付研究部門の実施の運用について』が出され、環境整備がなされていった。そして1987年10月22日、寄付研究部門第一号であるコンピュータ・通信寄付研究部門が開設された。

ただし、寄付研究部門の設置には、学内・学外からの風当たりも強かった。東大では87年6月に、寄付講座反対等の主張を掲げ、学生自治会主導のストライキが教養学部などで発生した。寄付講座反対の立て看板も至るところに出され、学内の教官からも産学の癒着だという批判を浴びた。

しかし、国際性を打ち出し、招聘教官は外国人中心にするという先端研の寄付研究部門の運営方針は、寄付研究部門は産学癒着であるという批判への回答ともなった。先端研がいち早く導入し、適切に運営したことにより、いつしか寄付講座や寄付研究部門に対する批判は収まり、むしろ産学連携をもっと進めるべきだという論調が勢いを増していった。先端研はここでもまた、「実験場」の役割を果たしたのである。

4. 初期の苦労とその後の状況

1987年10月22日のコンピュータ・通信寄付研究部門（NEC）を皮切りに、初年度は計4部門が開設された。その後、1988年度に1部門、1989年度には2部門が新たに開設されるなど、年を追うごとに拡充がなされていった。

画期的な試みである分、苦労も大きかった。運用金額は年間3000万～5000万円と通常の寄付に比べれば高額ではあるが、それでも経費をまかなうにはぎりぎりであった⁹⁾。受け入れ当初は、外国人教官の家族の仕事の世話や、設備の改修等、さまざまな手配を少ない人手の中で行わなければならない、寄付研究部門の運営は苦労が多かったようである。88年には、「東大構内で開かれたシンポジウムに出席した12人の外国人研究者が」、「連名の手紙で、『東大の施設は汚くて見劣りがした』と東大学長に直訴する「事件」もあった」¹⁰⁾ soである。

また、民間からの寄付で運用されることは、戦前・戦中の軍事研究を連想させ、産学癒着などの世間の誤解も招き¹¹⁾、すでに述べたように批判も数多くあった。

先端研では、このような批判にも考慮し、各部門の概要や研究内容、教官などの紹介を行った『寄

8) 東京大学先端科学技術研究センター編『東大先端研 ジェネリック・テクノロジーの発振』（三田出版会、1991年）。

9) 那野比古『東大先端研』（NTT出版、1991年）。

10) 『AERA』（1988年6月28日号、朝日新聞社）による。

11) 東京大学先端科学技術研究センター編『東大先端研 ジェネリック・テクノロジーの発振』（三田出版会、1991年）。

付研究部門活動報告書』の発行、シンポジウムの開催などを行い、積極的に社会に情報を公開していた。

先端研設立当初、しばらく寄付研究部門の設置が続いた。しかしバブル崩壊とその後の経済の停滞などを要因として、新規の寄付研究部門設立が困難になり先細りとなり、1995年12月以降には設置部門数が0となる。しかし1997年に再び設置され始め、2007年3月までの20年弱の活動期間中、のべ15部門が開設された。これらの設置状況は、次項の資料2-3-1にまとめている。

5. 資料

ここでは、寄付研究部門に関する基礎データを掲載する。

資料2-3-1 寄付研究部門一覧

部門名	寄付企業	開始年月	終了年月	時限	更新
コンピュータ・通信	NEC	1987年10月	1993年9月	3年	90年10月、3年間
未来材料	新日鉄	1988年1月	1992年12月	5年	
電気通信	NTT	1988年1月	1992年12月	5年	
情報科学	CSK	1988年3月	1991年2月	3年	
未来化学	三井東圧化学	1989年1月	1992年3月	3年3か月	
都市開発工学	GC-5 ※1	1989年4月	1994年3月	5年	
未来システム	三菱重工業	1989年10月	1992年9月	3年	
海洋バイオテクノロジー	東洋水産	1991年1月	1995年12月	5年	
量子材料	日立	1991年9月	1994年8月	3年	
環境バイオテクノロジー	荏原製作所	1997年9月	2001年6月	4年	
知的財産・技術インキュベーション	JT	1997年10月	2000年9月	3年	※2
アジア・国際知的財産権	CSK	1997年10月	2000年3月	2年	
実装工学	IMSI	1998年11月	2004年10月	3年	
先端医療・知的財産政策	第一製薬	2000年10月	2004年3月	※3	※2
実装エコデザイン	エコデザイン推進機構	2004年4月	2007年3月	3年	

本表は『先端研10年の歩み』、先端研公式ウェブサイト「先端研について 寄付研究部門」を基準に、『先端研紀要』第11巻、第12巻と、東京大学の平成16年2月17日評議会記事要旨を参照し、作成した。

※1 GC-5とはゼネコン（General Contractor）5社という意味で、大成建設、鹿島建設、清水建設、竹中工務店、大林組の5社が寄付を行った。

※2 更新の有無、時期等不明。

※3 当初の設置時限不明。

資料2-3-2 寄付研究部門客員教授・客員助教授一覧

部門名	名前	就任年月日	退任年月日	身分	国籍
コンピュータ・通信（NEC）	Enrique A. J. Marcatili	1987年10月22日	1990年3月31日	客員教授	アメリカ合衆国
	岡本 勝就	1987年10月22日	1988年10月21日	客員助教授	日本
	左貝 潤一	1988年11月2日	1989年10月21日	〃	〃
	吉國 裕三	1990年2月1日	1991年3月31日	〃	〃
	Ivan P. Kaminow	1990年4月1日	1991年3月31日	客員教授	アメリカ合衆国
	三上 修	1991年6月16日	1992年5月31日	客員助教授	日本
	小林 久志	1991年9月1日	1992年5月31日	客員教授	〃
	Paul R. Prucnal	1991年9月15日	1991年12月14日	〃	アメリカ合衆国
	Roger J. Malik	1992年6月1日	1992年8月31日	客員助教授	〃
	Andrew S. Jordan	1992年9月1日	1992年11月30日	客員教授	〃
	杉村 陽	1992年9月1日	1993年8月31日	客員助教授	日本

	Robert Hull	1992年12月7日	1993年3月6日	客員助教授	イギリス
	Philippe C. Becker	1993年3月1日	1993年5月31日	〃	アメリカ合衆国
		1993年9月1日	1993年9月30日		
未来材料（新日鉄）	水木 純一郎	1988年1月1日	1988年6月30日	〃	日本
	Gerald M Rothberg	1988年4月1日	1988年6月30日	客員教授	アメリカ合衆国
	香川 豊	1988年7月16日	1989年3月31日	客員助教授	日本
	Pierre Georges Fleischmann	1988年8月22日	1988年12月15日	客員教授	フランス*
	Merton C. Flemings	1989年3月16日	1989年8月31日	〃	アメリカ合衆国*
	Sunil Dutta	1989年4月1日	1990年3月31日	〃	アメリカ合衆国*
	Tapio A. Mäntylä	1989年4月1日	1990年3月31日	客員助教授	フィンランド*
	Otis Y. Chen	1989年4月1日	1991年3月31日	〃	アメリカ合衆国*
	Steve H. Carpenter	1990年4月1日	1991年3月31日	客員教授	アメリカ合衆国*
	金 教漢	1992年6月1日	1992年8月31日	客員助教授	大韓民国*
	Michel Boussuge	1992年6月11日	1992年9月10日	〃	フランス*
	Wolfgang H. Sachse	1992年12月2日	1993年3月1日	客員教授	アメリカ合衆国*
電気通信（NTT）	Chee-Wah Cheah	1988年1月16日	1988年6月30日	客員助教授	マレーシア
	Marek Osinski	1988年7月1日	1989年8月31日	客員教授	無国籍（英国永住権所持、米国永住権所持）
	Martin Fransman	1988年7月2日	1988年10月21日	客員助教授	イギリス
		1992年7月4日	1992年12月19日	客員教授	
	Joel N. Schulman	1988年12月19日	1989年6月23日	客員助教授	アメリカ合衆国
	Gerhart L. T. Fasol	1989年7月1日	1989年9月30日	〃	オーストラリア
		1991年10月15日	1992年12月14日		
	Hellmut Schutte	1989年9月1日	1991年2月28日	客員教授	ドイツ
	Mary C. Gabriel	1990年4月1日	1990年9月30日	客員助教授	アメリカ合衆国
	Gerrit E. Bauer	1990年9月21日	1991年1月10日	〃	ドイツ
	Peter G. Eliseev	1991年2月1日	1991年5月1日	客員教授	ソビエト社会主義共和国連邦
	Claude C. Weisbuch	1991年7月1日	1991年11月15日	〃	フランス
	Ramu V. Ramaswamy	1991年10月1日	1992年7月31日	〃	インド
	Jasprit Singh	1992年1月2日	1992年7月1日	客員助教授	アメリカ合衆国
情報科学（CSK）	Louis F. Pau	1988年3月23日	1988年11月21日	客員教授	フランスおよびデンマーク
	Pierre Morizet-Mahoudeaux	1988年6月15日	1988年9月14日	客員助教授	フランス
		1990年1月6日	1990年8月31日		
	Evan Michael Tick	1988年10月15日	1989年10月14日	〃	アメリカ合衆国
	Inyong Ham	1989年1月1日	1989年5月31日	客員教授	〃
	Aart Bijl	1990年4月1日	1990年8月31日	〃	イギリス
	Soundar R.T. Kumara	1990年5月25日	1990年8月24日	客員助教授	インド
	Hannu K. Kangassalo	1990年8月26日	1991年2月26日	客員教授	フィンランド
	Milan Vlach	1990年9月1日	1991年2月28日	〃	チェコスロバキア
未来化学 （三井東圧化学）	崔 勝哲	1989年1月4日	1992年2月15日	客員助教授	大韓民国
	Payne David Alan	1989年9月1日	1990年1月15日	客員教授	アメリカ合衆国
	Amar S. Bhalla	1990年12月15日	1991年4月13日	〃	〃
	Patrick S. Nicholson	1992年1月1日	1992年3月31日	〃	カナダ
都市開発工学 （GC－5）	長谷川 文雄	1989年4月1日	1991年3月31日	客員助教授	日本
	Richard Bender	1989年4月10日	1989年7月17日	客員教授	アメリカ合衆国
	Mitchell J. Rycus	1990年5月1日	1990年8月31日	〃	〃
	Leland S. Burns	1990年9月15日	1990年12月15日	〃	〃
	Michael L. Joroff	1991年1月1日	1991年3月31日	〃	〃
	Weiming Lu	1991年4月1日	1991年6月30日	〃	〃
	John Bennett	1991年7月1日	1991年9月30日	〃	イギリス
	相羽 康郎	1991年8月1日	1992年7月31日	客員助教授	日本
	Peter C. Bosselmann	1992年2月1日	1992年6月30日	客員教授	ドイツ
	Peter F. Droege	1992年8月10日	1993年2月28日	客員助教授	〃

	Gideon S. Golany	1992年12月1日	1993年3月31日	客員教授	アメリカ合衆国
	Stephen R. Lee	1993年4月1日	1993年6月30日	客員助教授	〃
	Botond Bogнар	1993年6月2日	1993年12月1日	客員教授	ハンガリー共和国
未来システム (三菱重工業)	Armen Der Kiureghian	1989年10月1日	1989年12月31日	〃	アメリカ合衆国
	張 湘偉	1990年1月1日	1991年8月14日	客員助教授	中華人民共和国
	Michal Kleiber	1991年4月1日	1992年7月20日	客員教授	ポーランド
	Andrea Prosperetti	1991年8月23日	1991年12月20日	〃	イタリア
	Jan Awrejcewicz	1992年1月15日	1992年9月30日	客員助教授	ポーランド
海洋バイオテクノロジー (東洋水産)	Walter C. Dunlap	1991年1月1日	1991年3月31日	客員教授	アメリカ合衆国
		1992年7月1日	1992年12月31日		
	竹内 俊文	1991年1月1日	1994年3月30日	客員助教授	日本
	Bruce E. Chalker	1991年4月1日	1991年7月31日	客員教授	アメリカ合衆国
	David J. Barnes	1991年8月18日	1991年12月16日	〃	イギリス／オーストラリア
	Paul J. Scheuer	1992年1月1日	1992年3月31日	〃	アメリカ合衆国
	Rolf D. Schmid	1992年4月1日	1992年6月30日	〃	ドイツ連邦共和国
	Wayne W. Carmichael	1993年1月5日	1993年5月19日	〃	アメリカ合衆国
	Zvy Dubinsky	1994年2月1日	1994年7月31日	〃	イスラエル
	松川 律子	1994年4月1日	1995年12月31日	客員助教授	日本
	西田 俊和	1994年5月16日	1994年8月15日	〃	アメリカ合衆国
	増地 矢恵子	1995年4月1日	1995年12月31日	〃	日本
量子材料 (日立)	Joseph W. Haus	1991年9月1日	1992年8月31日	〃	アメリカ合衆国
	Arthur C. Gossard	1991年9月10日	1991年12月20日	客員教授	〃
	Jean-Pierre Leburton	1992年1月7日	1992年5月21日	〃	ベルギー王国
	James Logan Merz	1992年9月1日	1992年12月16日	〃	アメリカ合衆国
	Derek C. Houghton	1993年1月1日	1993年9月30日	〃	カナダ
	呉 培亨	1993年10月27日	1994年4月30日	〃	中華人民共和国
	David Frank Moore	1994年6月27日	1994年9月26日	客員助教授	イギリス
環境バイオテクノロジー (荏原製作所)	Walter C. Dunlap	1997年7月1日	1997年7月31日	客員教授	アメリカ合衆国
	花方 信孝	1997年10月1日	2001年6月30日	客員助教授	日本
	Zvy Dubinsky	1998年3月1日	1998年5月31日	客員教授	イスラエル
知的財産・技術インキュベーション (JT)	田村 明照	1997年10月1日	1999年3月31日	客員助教授	日本
	小野 耕三	1998年10月1日	2000年5月31日	客員教授	〃
アジア・国際知的財産権 (CSK)	鄭 勝利	1997年10月9日	1998年1月31日	〃	中華人民共和国
	田村 明照	1999年4月1日	1999年9月30日	客員助教授	日本
	Stephen B. Maebius	1999年6月8日	1999年7月4日	〃	アメリカ合衆国
	相田 義明	1999年10月1日	2000年3月31日	客員教授	日本
	Harold Wegner	1999年11月15日	1999年12月9日	〃	アメリカ合衆国
実装工学 (IMSI)	Hans-Hermann Oppermann	1998年11月1日	1999年4月30日	客員助教授	ドイツ
	奥村 勝弥	2001年8月1日	2004年3月31日	客員教授	日本
	Md. Matiar Rahman Howlader	2002年12月1日	2004年10月31日	客員助教授	バングラデシュ
先端医療・知的財産政策 (第一製薬)	森口 尚史	2000年10月1日	2002年3月30日	〃	日本
	廣井 良典	2002年12月1日	2003年9月30日	〃	〃
		2003年10月1日	2004年3月31日	客員教授	
実装エコデザイン (エコデザイン推進機構)	奥村 勝弥	2004年4月1日	2007年3月31日	〃	〃
	Md. Matiar Rahman Howlader	2004年11月1日	2005年3月31日	客員助教授	バングラデシュ

本表は、先端研人事データベースを基準に、『寄付研究部門 活動報告書』（各年度）、『先端研紀要』（各年度）、教授総会配布資料を参照し、作成した。

※ 国籍情報が不明のため、着任直前の所属組織の所在地を掲載した。

第4節 スーパーCOE

本節では、「スーパーCOE」プロジェクトに応募し、承認採択されてからの4年半のプロジェクト実施期間における先端研の変容を述べる。まず、先端研がこのプロジェクトに応募するに至った経緯を述べる。次に、プロジェクトの達成目標である先端研改革構想と、そのために先端研が打ち出した4つの「仕掛け」を説明する。そして最後に外部の事後評価について触れ、この試みがいかなるものであったのかを振り返りたい¹²⁾。

1. はじめに——「スーパーCOE」プロジェクトと先端研の活性化——

スーパーCOEプロジェクトとは、文部科学省が2001年10月から開始したプロジェクト「戦略的研究拠点育成事業」のことである。このプロジェクトの内容について詳しくは後述するが、これに応募し採択されたことが、先端研にとって大きな転機となった。

まず、プロジェクト応募前後に、先端研がどういう状況にあったかを説明したい。2000年秋、東京大学の評議会は、教官の定年を従来の60歳から延長することを決定した。先端研は、定年延長が必ずしも組織の活性化につながるとは限らないとして、評議会の席でただ一部局だけ、この定年延長に反対している。もともと先端研は、設立以来「流動性」「学際性」「国際性」「公開性」の4つの基本理念を掲げ、教授らの任期を10年にするなど大学システム改革のためにさまざまな先駆的試みをしていた。しかし東大の定年延長の議論に触発され、内部に南谷崇教授を委員長とする活性化委員会を設置し、定年延長後においても組織をいかに活性化させるか、その仕組みづくりを検討していた。

ちょうどその頃の2001年3月、政府の総合科学技術会議は「科学技術振興調整費の活用に関する基本方針」を打ち出した。基本方針は以下の三点である。

- 1) 優れた成果の創出・活用のための科学技術システム改革
- 2) 将来性が見込まれる分野・領域への戦略的対応等
- 3) 科学技術活動の国際化の推進

この方針に基づき、文科省はこれらを動機付けるための具体的な政策立案に着手し、4月19日付けで「科学技術振興調整費による業務の実施要綱の制定について」を通知し、25日から戦略的研究拠点育成プログラム（スーパーCOE）を含む6件の新プログラムの公募を開始した。

このプログラムの画期的な点は、5年間（初回募集の初年度は半年であったため4年半）の実行期間が与えられ、年間10億円という大きな金額を、一つの研究テーマではなく組織自体のシステム改

12) なお、本項の内容は次の資料に依拠している。宮本喜一『挑戦続く先端研』（日経BPクリエイティブ、2004年）、東京大学先端科学技術研究センター先端テクノロジービジネスセンター編集発行『アクティブレビュー』（vol.01、2002年3月）。

革という大きな枠組みで使うことができる点である。逆に、建物や研究経費に直接この資金を使うことはできない。あくまで研究成果を生み出す土壌の改良を企図したものである。

このプログラムに盛り込まれた、「組織の長の優れた構想とリーダーシップにより」などの文言は、予算の都合や教授会によって従来限定されてきた国立大学の組織の長の裁量を拡大させ、自分の打ちたてた構想に予算を充て推進できることを示している。奇しくも、先端研の活性化を議論していた南谷委員長は2001年4月にセンター長に就任しており、「まるで先端研のためであるかのような募集要項」であったと感じ、スーパーCOEの計画作りに急いで入ったと述懐している。

結局、スーパーCOEに対する105件の応募案のうち、先端研の「人間と社会に向かう先端科学技術オープンラボ」と大阪大学大学院工学研究科の「フロンティア研究拠点構想」の2件が採択され、2001年10月からの戦略的研究拠点育成プログラム5カ年計画がスタートした。

2. 先端研改革構想—5つの目標—

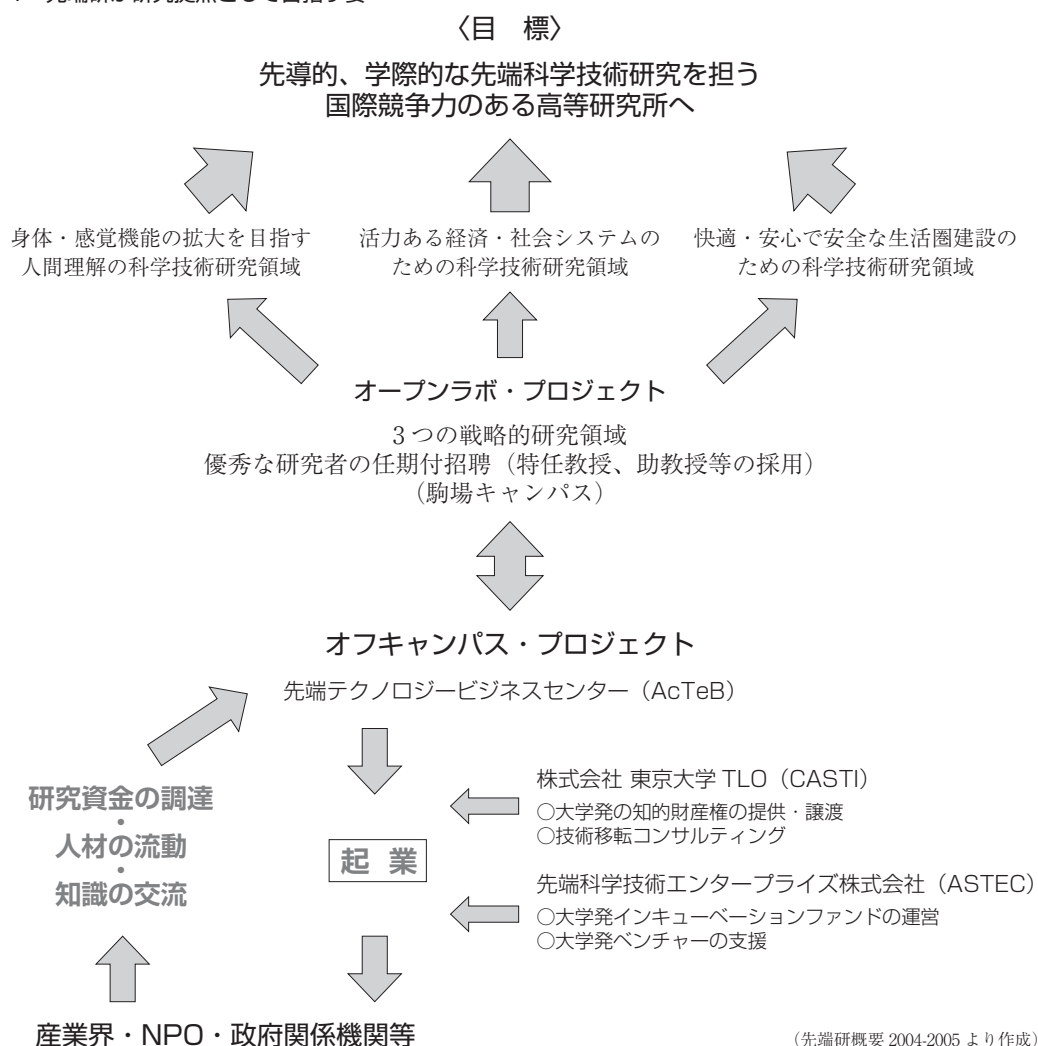
このプログラムを実行するため先端研は、センター長の諮問機関として戦略的研究拠点運営委員会を、センター長の直属として戦略的研究拠点推進室をそれぞれ設置し、次の5項目の達成を狙いとした先端研改革構想を掲げた。

- 1) 科学技術基本計画で推進する生命科学、情報通信、ナノテクノロジー・材料、環境の4重点分野の先に展開する新しい先導的研究領域の開拓
- 2) 既存の学問分野と既存の研究組織の枠を越えた弾力的で機動性のある研究組織形態への転換
- 3) 国内外の第一級の研究者を惹き付け、また育てることのできる高度な研究環境を提供できる仕組みの構築
- 4) 定員制、定年制の制約を克服し、研究者の流動化と国際化を実質的に促進する人事・評価制度の設計と実現
- 5) 研究成果をもって産業創生、文化創造に貢献することにより社会も研究者も報われる社会連携／産学連携の仕組みの設計と実現

これらの目標の背景には、当時の国立大学のさまざまな問題点、限界の認識がある。たとえば、設置形態に由来する硬直性、教員／研究者の身分を規定する公務員制度、流動性を妨げる社会の制度と意識、活性化インセンティブを生まない組織運営・人事評価などが指摘される。これらの国立大学という現行システムの問題を意識し、それを克服し国際的に魅力ある卓越した研究拠点を目指すというのが、先端研の考え方であった¹³⁾。

先端研が目指す戦略的研究拠点としての姿は、資料2-4-1に示したようなものであった。

13) 『アクティブレビュー』（vol.1、2002年3月）より。



3. 4つの仕掛け

先端研は、以上の目標の達成のために4つの仕掛け（戦略的研究課題、オープンラボ型組織運営、特任教員制度、オフキャンパス拠点経営）を打ち出した。以下説明する。

（1）戦略的研究課題

まず、既存の大学組織の枠である「大部門」とは別に、次の三領域を戦略的研究課題として設定した。

- 1) 環境共生と高度情報化を前提とした「快適、安心で安全な生活圏」建設のための科学技術開発
- 2) 膨大化する知識情報、感性情報を活用し、多様化と不確実性への挑戦を可能にする「活力

ある経済・社会システム」実現のための科学技術開発

3) 社会的受容と相互作用しつつ、人間の身体・感覚機能の拡大を目指す「人間理解」の科学技術開発

これらの研究領域は、科学技術研究の成果を社会へ還元する手段としての産学連携、産業創生への貢献と、快適で安心、安全な社会、生活圏の建設のため、各分野で立ち上がりつつある要素技術を従来の学問領域を越えて融合させることを目的としている。

(2) オープンラボ型組織運営

オープンラボ型組織とは、テーマの提案、研究実施、成果の公表と評価、研究者の採用、異動に関して広く学内外、国内外に開かれた研究組織である。3つの戦略的研究課題の達成に焦点を絞り、既存の学問分野、既成の研究組織を超えた研究者の結集を図る。センター長が各プロジェクトのプロジェクトリーダー（中心となる研究者、ディレクター）を先端研内外から指名し、リーダーはプレーヤー（研究者）を学内外、国内外から集める。実施期間は3年から5年に限定し、原則として競争的外部資金で研究経費をまかない、振興調整費は外部から招いた研究者の人件費や、制度設計に使われた。

資料2-4-2 オープンラボプロジェクト一覧

プロジェクト名	ディレクター
1) 環境共生と高度情報化を前提とした「快適、安心で安全な生活圏」建設のための科学技術	
ナノ光電子デバイスに関する研究	荒川 泰彦
フォトニックネットワークデバイスに関する研究	中野 義昭
ディペンダブルシステム／ネットワークに関する研究	中村 宏
日欧ケミカルナノテクノロジーに関する研究	渡部 俊也
環境低負荷型マグネシウム／ガラス同時リサイクルプロセスの構築に関する研究 ^{*1}	近藤 勝義
メガシティにおけるオキシダント（・エアゾル）の光化学的制御戦略に関する研究 ^{*2}	近藤 豊
先端まちづくりに関する研究	大西 隆
アジア・エコデザイン戦略に関する研究	須賀 唯知
2) 膨大化する知識情報、感性情報を活用し、「活力ある経済・社会システム」実現のための科学技術	
次世代知的財産戦略研究ユニットの構築に関する研究	玉井 克哉
知識創造活用サイクルの変革に関する研究	堀 浩一
大学による新産業創造：ナショナル・イノベーション・システムに関する研究	馬場 靖憲
経済革新の源泉と展望に関する研究	藤井 真理子
先端科学技術研究戦略 ^{*3}	南谷 崇
3) 社会的受容と相互作用しつつ、人間の身体・感覚機能の拡大を目指す「人間理解」の科学技術	
システム生物学	児玉 龍彦
人間本位の情報応用バリアフリー空間の構築に関する研究	福島 智
五感情報通信に関する研究	廣瀬 通孝
新規核酸材料の開発に関する研究	小宮山 眞
生体－機械系の融合による人間の身体・感覚機能の拡張と制御に関する研究 ^{*4}	満洲 邦彦
ヒューマン・モデルの構築とそのリハビリ医療・外科手術補助への応用に関する研究 ^{*5}	相澤 龍彦

本表は2003年度の先端研公式ウェブサイトを基準に、『先端研概要』（各年度）を参照し、作成した。

※1 2005年度『先端研概要』には「環境軽負荷材料創製プロジェクト」との名称で記載。

※2 2005年度『先端研概要』には「メガシティにおけるオキシダント・エアゾルの光化学的制御戦略に関する研究」との名称で記載。

※3 2005年度はTBIプロジェクト扱い。ディレクターは橋本和仁、澤昭裕。

※4 2005年度『先端研概要』には記載無し。

※5 2002、2005年度『先端研概要』には記載無し。

各オープンラボの名称と変遷については、資料2-4-2を参照されたい。

また、2004年4月の独立法人化を機に、既存の大部門制もクラスター制に置き換えられたが（第1節参照）、これはオープンラボの思想を反映させたものである。プロジェクトの中間評価のために先端研がまとめた「実証資料」には次の記述がある。「オープンラボは付加的な組織ではなく、先端研の本体そのものを意味する。既存の大部門は現在でも機能していないが、法人化後は廃止し、全員が同一ファカルティに属するフラットな組織とする」。このようにスーパーCOEの理念は、先端研の経営と組織にも浸透しているのである。

（3）特任教員制度

オープンラボ・プロジェクトで外部から招聘するリーダー、プレーヤーを特任教授、特任助教授、特任講師と呼称し、従来の講座制の下での定員の制約を克服した。資料2-4-3は、制度開始時の教員の一覧である。

資料2-4-3 特任教員一覧（発足時）

プロジェクト名	氏名	役職	前職
システム生物医学	児玉 龍彦	特任教授	東大教授
	柴崎 芳一	〃	ハーバード大学医学部細胞生物学科研究員
	野口 範子	特任助教授	東大助手
情報応用バリアフリー空間の構築	南 敬	〃	ハーバード大学分子医学研究所研究員
	長瀬 修	〃	障害コミュニケーション研究所代表
	Peter J. Marcotullio	特任教授	東大講師
先端まちづくり研究	玉谷 卓也	特任助教授	米国CORIXA研究員
次世代知的財産戦略研究ユニット構築	森口 尚史 ^{*1}	〃	東大客員助教授
先端医療システム研究	中小路 久美代	特任教授	奈良先端科学技術大学院大学客員助教授（株SRA先端技術研究所）
知識創造活用サイクルの変革に関する研究	John P. Walsh	〃	イリノイ大学シカゴ校社会学科准教授
大学における新産業創造	藤本 淳	〃	日本電気環境技術研究所研究部長
アジアエコデザイン戦略	平尾 一郎	〃	理化学研究所ゲノム科学総合研究センター チームリーダー
新規核酸材料の開発	廣川 淳	特任助教授	東大講師
メガシティにおけるオキシダントの光化学制御戦略に関する研究	近藤 勝義	〃	東大客員助教授
環境低負荷型マグネシウム・ガラス同時リサイクルプロセスの構築に関する研究	岩井 俊雄	特任教授	メディアアーティスト
五感情報通信に関する研究	大崎 壽	〃	神奈川科学技術アカデミー研究員
日欧ケミカルナノテクノロジーに関する研究	小林 俊哉	特任助教授	未来工学研究所 研究グループ長
先端科学技術研究戦略	井原 茂男	特任教授	日立製作所 バイオインフォーマティクス担当部長
ダイナミカルバイオインフォーマテックス	先濱 俊子	特任助教授	京都大学再生医科学研究所研究員
バキュロウィルスを用いた機能的蛋白質の大量発現法の開発およびその応用	三好 元介	特任教授	東芝
親指サイズ電子顕微鏡の研究・開発	江里口 正純	〃	新横浜メディカルクリニック院長
癌転移メカニズム	柳衛 広宣	特任助教授	帝京大学医学部講師
癌転移抑制			

本表は平成14年度参与会配布資料、『先端研概要』（2002年度、2003年度）より作成した。

※1 システム生物医学ラボと併任。

14) なお法人化以前は、特任教員は「日々雇用」という形式で給与が計算されていた。独立法人化を機に、特任教員の俸給表が定められ、適用されるようになった。

特任教員は4年以内の任期つきフルタイム雇用¹⁴⁾とし、その選考にあたっては多様な評価基準を設け、通常の人事と同様に教授会の厳格な審査を行った。教授会における人事投票権以外は基本的に東京大学教授・助教授・講師と同等の権利を持った。さらに、年収ベースで1割から2割程度高い給与など、柔軟な人事・給与体系を目指したが、これは実現しなかった。これは特任教員制度が全学的、全国的なものとなった現在でも実現していない。

(4) オフキャンパス拠点経営

仕掛けの4つ目であるオフキャンパス拠点経営については、2001年11月、六本木に「先端テクノロジービジネスセンター（AcTeB）」を開設した。CASTI（現東京大学TLO）、ASTECと連携し、技術移転、包括的共同研究などのリエゾン事業、大学発ベンチャー育成のためのインキュベーション事業、産学連携・技術管理の人材を育成するスクール事業の展開と、産学連携に関わる法政策・制度や利益相反などに関する研究を行う拠点である（CASTI、ASTEC、AcTeBに関しては、第1章第3節参照）。

資料2-4-4 TBIプロジェクト一覧

テーマ名	開始年度	研究者	役職
太陽光を利用する環境改善プロジェクト	2002	橋本 和仁	教授
ガン転移抑制プロジェクト	2002	玉井 克哉 江里口 正純 柳衛 宏宜	教授 特任教授 特任助教授
固相合成法によるマグネシウム合金の高機能化プロセス開発 ^{*1}	2002	近藤 勝義	特任助教授
親指サイズ電子顕微鏡プロジェクト	2002	奥村 勝弥 三好 元介	客員教授 特任教授
マイクロアレイ解析と自然言語処理による文献検索	2002	油谷 宏幸 井原 茂男	教授 特任教授
標的塩基配列検出システムの事業化 ^{*1}	2002	鈴木 英之	特任研究員
たんぱくチッププロジェクト ^{*2}	2002	浜窪 隆雄 児玉 龍彦 先濱 俊子	教授 特任教授 特任助教授
赤外線同報通信プロジェクト ^{*3}	2002	安田 浩	教授
実装エコデザイン推進プロジェクト	2003	須賀 唯知	教授
光インターコネクションデバイス・ビジネス戦略	2003	中野 義昭	教授
知識マネジメントのためのインタラクションデザイン	2003	堀 浩一 中小路 久美代	教授 特任教授
エージェント指向コンポーネント設計・開発理論に基づくビジネスコンポーネントの開発 ^{*3}	2003	馬場 靖憲 藤井 章博	教授 研究生
高機能光ファイバブラッググレーティングデバイスの研究	2003	菊池 和朗	教授
復唱音声認識技術を用いた教育バリアフリー支援システムの事業化	2003	伊福部 達	教授
先端科学技術研究戦略	2005	橋本 和仁 澤 昭裕 津村 重彰 廣瀬 弥生 神野 智世子 安田 聡子 菅 正史	所長 教授 特任助教授 特任助教授 特任助教授 特任助手 特任助手

本表は『人間と社会に向かう先端科学技術オープンラボ 平成14年度 事業報告書』、『先端研概要』（各年度）より作成した。

なお、研究者、役職は発足時のものである。

※1 2003年度で卒業。

※2 のちに「バキュロウイルス発現プロジェクト」に改称。

※3 2004年度以降『先端研概要』に記載無し。

インキュベーション事業の一環としてインキュベーションプロジェクト（TBI）を実施し、それまでの先端研や、オープンラボ・プロジェクトの実施過程で得られた研究成果をAcTeBの支援の下で事業化する試みがなされた。事業化の見込みが立ったものは「卒業」という形をとった。5年間のプロジェクト終了後も、先端研内で研究を続けているものもある。実施されたTBIに関しては、資料2-4-4を参照されたい。

4. プロジェクトの成果

最後に、先端研のスーパーCOEの評価と成果について確認しておく。

文部科学省では、先端研のスーパーCOEに関し、中間評価と事後評価を行っている（資料2-4-5、文科省ウェブサイト「平成18年度科学技術振興調整費の評価結果等について」参照）。ここでは事後評価について確認する。

「目標達成度」は、オフキャンパス・プロジェクトについて、オフキャンパスに設置された効果が十分に発揮されなかった点、「研究者の評価システム構築」への取り組みが不十分な点などにより、若干評価が厳しくなっている。

「組織運営の妥当性」については、センター長に強い権限と責任を与えた点、経営戦略室の設置により教授会から経営事項を切り離し、意志決定をトップダウン的に行う体制を整えた点を評価している。

「組織改革の成果」については、外部資金の獲得額を大幅に増やした点、「特任教員」という先駆的

資料2-4-5 文部科学省評価

中間評価

総合評価	今後の進め方	進捗状況（目標達成度）（ミッションステートメントに対して）	組織運営構想の妥当性	組織改革の成果		
				研究拠点としての波及効果	組織運営構想の波及効果	情報発信
a	a	a	a	a	a	a

組織運営総括責任者の指導性	実施期間終了後における取組の継続性・発展性 の見通し
a	b

事後評価

総合評価	目標達成度（ミッションステートメントに対して）	組織運営の妥当性	組織改革の成果	実施期間終了後における取組の継続性・発展性 の見通し	中間評価の反映
A	b	a	a	a	a

本表は文科省ホームページの資料より作成した。

制度設計をした点、評価されている。

「実施期間終了後における取組の継続性・発展性の見通し」については、高い研究ポテンシャルによる競争的資金の獲得や、「経営戦略企画室の設置による経営機能の強化」「特任研究員制度の継続」「クラスター制やオープンラボ型組織の継続的発展」等の取組が継続して実施されており、継続性・発展性は十分に確保できるとしている。

「総合評価」はAとなっており、特に特任教員制度等、「波及効果の高い極めて優れたシステム改革を成し遂げた」などと評価している。

文科省の事後評価で厳しい評価が下された2点について、先端研側の事後評価で確認しておく¹⁵⁾。まず定常的な研究者評価を給与に関連付ける方式等については、労力に比して十分な研究活性化効果を得ることが難しいと判断し、当面導入しない方向で検討することにした、と先端研側はしている。また、AcTeBが結局オンキャンパス化したことについては、一定の成果をあげたことは主張しつつも、オフキャンパス拠点の業務が単純な広報業務に近い色彩が強くなる可能性の存在など、問題点が浮き彫りになったことを認めている。

スーパーCOEはその目的が示すとおり、単なる研究プログラムの枠を超えて既存の大学システムの変革を迫るものである。スーパーCOE実施期間中に法人化を迎えたことも転機となり、さまざまな改革を実施した。教授会から権限を移し所長権限を強化したことで、教授たちが研究に専念できる体制を整えたこと、メンバーの過半数を学外の有識者とする先端研ボードが所長への助言、監督を行うとともに、所長の選考にも関わるようになったこと（第1章第2節参照）なども、そうした改革の一環である。2007年4月25日の教授会で、先端研に所属する教授の定年を2007年度から60歳とする方針を決めるなど、現在でも活性化策を模索し続けている。

先端研は、もともと東大の「実験場」として改革が運命付けられた組織ではあったが、スーパーCOEをきっかけにその性格をさらに強め、特任教員制度の波及に代表されるように全国的にも組織改革の尖兵としての役割が注目されるようになった。これからも先端研におけるさまざまな試みは、法人化後の大学のあり方の模範として、ときとして反面教師として、注目を浴び続けるだろう。

15) 先端研側の事後評価報告書である『戦略的研究拠点育成（事後評価）』（経営戦略企画室所蔵資料）より。

第5節 受賞・表彰

先端研は研究組織体制を変革し続け、多くの成果を上げてきた。スーパーCOEへの採択など組織全体として注目を浴びるだけでなく、個々の研究者の研究も評価されている。その結果、さまざまな団体、組織から先端研の研究者は表彰され、さまざまな賞を受賞している。ここでは、大学院生も含む先端研の研究者の受賞、表彰を資料として掲載する。データは、『先端研紀要』、『先端研ニュース』、先端研ウェブサイト、先端研NAVI、先端研標準実績データベース、各種ウェブサイトより作成している。また、近年の受賞・表彰については、各教員、研究室の方々に協力をいただいて作成した。

資料2-5-1 受賞・表彰一覧（年度内の並びは順不同）

年	受賞・表彰者・グループ	賞の名称	授与組織等	貢献内容
1988	岸輝雄教授	技術功績賞	チタニウム協会	チタニウム合金の研究
〃	宮山勝講師	進歩賞	日本セラミックス協会	酸素イオン及び電子伝導性セラミックスの導電機構に関する研究
1989	大越孝敬教授	モーリスN. リーブマン賞	IEEE（米国電気電子学会）	コヒーレント光ファイバ通信の先導と先駆的貢献
〃	楠裕之教授	IBM 科学賞	日本IBM	半導体量子構造の研究
〃	武田展雄助教授	論文賞	強化プラスチック協会	ガラス短繊維強化ナイロン射出形成板の破壊靱性に及ぼす繊維表面処理効果
〃	民谷栄一助教授	進歩賞	日本化学会	バイオセンサーの高性能化に関する研究
〃	鳥越一平助手	論文賞	計測自動制御学会	微小な脈動を利用した質量流量計
〃	二本鋭雄教授	学会賞	日本ビタミ学会	ビタミンEの抗酸化作用に関わる反応論的研究
〃	三田達教授	高分子化学功績賞	高分子学会	高分子の物性に支配される反応と耐熱性高分子の研究
〃	三田達教授	科学技術賞	スガウエザリング技術振興財団	高分子材料の熱及び光劣化機構及び材料耐久化の研究
〃	柳田博明教授、大阪ガス総合研究所	注目発明	科学技術庁	一酸化炭素を選択的に検知できるpn接触系センサーの開発
1990	荒川泰彦助教授	Young Scientist Award	ガリウム・ひ素および関連化合物国際シンポジウム	低次元半導体レーザに関するバイオニアの研究
〃	大越孝敬教授	著述賞	電子情報通信学会	コヒーレント光通信工学
〃	大越孝敬教授	「電波の日」郵政大臣表彰	郵政省	電波技術の進歩と電気通信行政の推進への貢献
〃	軽部征夫教授	市村学術賞貢献賞	新技術開発財団	マイクロバイオセンサーの開発
〃	木村文彦教授	高城賞	精密測定技術振興財団	産学協同研究の成果に対して
〃	木村文彦教授	Outstanding Service Award	IFIP（国際情報処理連合）	IFIPの活動に対する貢献
〃	楠裕之教授	注目発明	科学技術庁	量子井戸を用いた半導体素子
〃	楠裕之教授	応用物理学会賞	応用物理学会	量子細線超格子と結合量子箱構造：工学フォノン散乱制御の新手法
〃	楠裕之教授	服部報公賞	服部報公会	半導体マイクロ構造における量子効果とその応用
〃	館暉助教授	計測自動制御学会フェロー	計測自動制御学会	研究・開発・教育啓蒙・管理運営その他の活動を通して計測自動制御学会の関与する分野の学問技術の発展に顕著な功績
〃	館暉助教授	論文賞	計測自動制御学会	ホログラムを生じる空間知覚モデル
〃	平田賢教授	科学技術功労者	東京都	エネルギーシステム工学に関する優秀な技術の育成・実施
1991	荒川泰彦助教授	IBM 科学賞	日本IBM	量子効果半導体レーザの研究
〃	大越孝敬教授	放送文化賞	日本放送協会	電気通信工学の独創的研究と放送文化向上への寄与

年	受賞・表彰者・グループ	賞の名称	授与組織等	貢献内容
1991	大越孝敬教授	功績賞	テレビジョン学会	画像工学及び光エレクトロニクス分野における先駆的研究と、編集長な らびに会長として果たした学会の発展への貢献
〃	大越孝敬教授	藤原賞	藤原科学財団	マイクロ波及び光波エレクトロニクスの研究
〃	岸輝雄教授、志波光晴研究員	論文賞	日本非破壊検査協会	AEによるARALLの亀裂進展阻止機構の解明
〃	榊裕之教授	注目発明	科学技術庁	半導体結合量子箱構造
〃	榊裕之教授、荒川泰彦助教授	業績賞	電気情報通信学会	量子効果デバイスの先駆的研究
〃	館暉助教授	学会賞技術賞	日本ロボット学会	テレイドジスタンス技術
〃	西村幸夫助教授	奨励賞	日本建築学会	「英国ナショナル・トラストの道程と環境保全運動論の展開」、「シビッ ク・デザインはいかにして向上させるか」
〃	二タ村森講師	進歩賞学術部門	燃料協会	石炭液化における水素移動過程の解明
〃	廣松毅教授	電気通信普及財団賞（テレコ ム社会科学賞）	電気通信普及財団賞	情報経済のマクロ分析
〃	柳田博明教授	学術功労賞	日本セラミックス協会	機能性セラミックスの基礎科学に対する貢献
1992	榎学講師	奨励賞	日本金属学会	アコースティック・エミッション波形逆問題解析法の開発
〃	大越孝敬教授	東京都科学技術功労者	東京都	コヒーレント光ファイバ通信研究の創始とその体系化
〃	大越孝敬教授、山下真司助手	論文賞	電子情報通信学会	2段階位相ダイバシオン光通信方式—光回路の不均衡の影響とその補償
〃	河内啓二教授	Best Presentation Award	AIAA（米国航空宇宙学会）	Optimal Control of Helicopters Following Power Failure
〃	佐藤知正教授	論文賞	計測自動制御学会	能動的照度差ステレオシステムのための光源配置プランニング
〃	佐藤知正教授	論文賞	日本ロボット学会	人間との共同作業を特徴とする遠隔作業ロボットシステム
〃	高橋裕助手、高木秀樹（先端学 際院生）、須賀唯知助教授	論文賞	日本金属学会	AI-AI常温接合体の組織的・機械的及び電気的特性に及ぼす接合環境の影 響
〃	保立和夫助教授、奥川徹（院生）	最優秀論文賞	第4回オプトエレクトロニクスコン ファレンス	Optical Information Processing by Synthesis of Coherence Function
〃	二タ村森講師	奨励賞（鹿島建設賞）	石油学会	芳香族化合物の分解反応における水素移動過程の解明
〃	古川俊之元教授、柳田博明教授	技術科学図書文化賞優秀賞	日刊工業新聞社	バイオメーション革命
〃	村上存助教授	研究奨励賞	日本機械学会	機械設計における総合過程を支援する知的CAD技術に関する研究
〃	渡部勲枝官	「匠」（スベシヤリスト）	ターボ機械協会	1号館風洞における優れた実験技術とその研究成果
1993	秋元肇教授	大気汚染研究会賞	大気汚染研究協会	大気中の光化学反応機構の解明、東アジアにおける大陸性気塊の対流圏 への影響研究など、地域ならびに地球規模での大気光科学反応機構の解 明
〃	榎学助教授	山下太郎学術研究奨励賞	山下太郎顕彰育英会	アコースティック・エミッションの逆問題解析による先端材料の定量評 価

年	受賞・表彰者・グループ	賞の名称	授与組織等	貢献内容
1993	山下俊助手	高分子研究奨励金	日本高分子学会	一連の芳香族高分子の固相光反応の研究に対して
〃	荒川泰彦助教授	服部報公賞	服部報公会	量子効果光デバイスの先駆的研究
1994	磯山隆 (先端学際院生)	論文賞、坂本賞	日本ME学会	単一流の連続流ポンプを用いた拍動流完全人工心臓システムの開発
〃	軽部征夫教授	名誉工学博士	ルント大学 (スウェーデン)	バイオエレクトロニクスという新領域の先駆者としての業績
〃	軽部征夫教授	発明研究功労者	東京都	BODセンサーの開発に対して
〃	岸輝雄教授	論文賞	日本金属学会	き裂偏向機構による多結晶体の破壊靱性の理論的な評価
〃	野口範子助手	Young Investigator Award	国際フリーラジカル学会	低比重ポリ蛋白質の酸化変性に及ぼすエプセレンの効果
〃	花木啓祐教授	有功賞 (論文賞)	日本下水道協会	脱窒における一酸化二窒素生成と操作因子の関係
〃	村上存助教授	研究奨励賞	人工知能学会	コンフィギュレーション空間を用いた機構原理探索システム
〃	山下真司助手	丹羽記念賞	丹羽記念会	光増幅器の分布定数的雑音理論とその光ファイバ増幅器への適用他3編
〃	李洪鈴助手	国際技術交流奨励金	東電記念科学技術研究所	同位元素に関する国際会議における論文発表
1995	軽部征夫教授	教育功労賞	フランス政府	日本とフランスの大学における教育への多大な貢献に対して
〃	軽部征夫教授	全国発明表彰・発明賞	社団法人発明協会	環境計測用バイオセンサーの発明
〃	小林稔 (先端学際院生)	10周年記念優秀論文賞	情報通信学会	次世代通信網の整備と新たなマルチメディア・ビジネスの創出—一次世代ネットワーク事業の採算性分析と普及への課題—
〃	桐裕之教授	島津賞	島津科学技術振興財団	半導体の量子効果と計測に関する研究
1996	上野敦志 (院生)、堀浩一助教授、中須賀真一助教授	研究奨励賞	人工知能学会	報酬に基づく状況認識と状況に基づく行動選択の同時学習
〃	軽部征夫教授	竹田科学賞		地球環境問題に対する貢献
〃	岸輝雄教授	米セラミックス学会フェロー	米セラミックス学会	セラミックス及び複合材料のマイクロクロックの検出等における功績によるもの
〃	岸本昭助教授	進歩賞	日本セラミックス協会	過酸化ポリ酸を出発原料とした機能材料の構造と物性に関する研究
〃	小方孝 (先端学際院生)、堀浩一助教授、大須賀節雄 (早大教授、元先端研教授)	論文賞	人工知能学会	物語のための技法と戦略に基づく物語の概念構造生成の基本的フレームワーク
〃	小方孝 (先端学際院生)、渡辺光一 (院生)、堀浩一助教授、大須賀節雄 (早大教授、元先端研教授)	論文賞	経営情報学会	マーケティング/広告統合支援のための物語生成システムの応用の基本的枠組み
〃	桐裕之教授	DAVID SARNOFF AWARD	IEEE (米国電気電子学会)	pioneering studies of quantum effects in semiconductor microstructures
〃	砂村潤 (院生、白木研)	Student Award	European Material Research Society	Anomalous photoluminescence of pure- Ge/Si type- II coupled quantum wells
〃	野口悠紀雄教授	ソフト化賞	ソフト化経済センター	1940年体制ほか

年	受賞・表彰者・グループ	賞の名称	授与組織等	貢献内容
1997	宇佐美徳隆助手	Fellowship on Silicon Heterostructures	Engineering Foundation Conference	Physics to Devices
〃	橋本和仁教授	日本照明賞	日本照明学会	汚れ分解機能膜付道路トンネル照明器具の開発と実用化
〃	橋本和仁教授	I B M科学賞	日本IBM	光電気化学を基礎とした機能材料の創製
〃	高橋琢二助教授	講演奨励賞	応用物理学会	InAs被覆GaAsのレーザ光照射下でのトンネルスペクトロスコピー
〃	佐藤知正教授	日本機械学会ロボメカ部門業績賞	日本機械学会	人間ロボット協調分野における優れた研究業績
〃	佐藤知正教授	日本ロボット学会論文賞	日本ロボット学会	ロボットによる人間の意図の能動的理解機能
〃	白木靖寛教授	発明奨励賞	発明協会	ポリシリコン TFT
1998	岡部洋一教授	新機能素子研究開発協会賞	新機能素子研究開発協会	超電導素子の研究と開発に関する貢献
〃	河内啓二教授	科学技術庁長官賞	第39回科学技術映像祭	科学技術振興事業団創造科学技術推進事業「微小流動プロジェクト」の研究成果紹介ビデオ
〃	河内啓二教授	First Prize in Technology and Research	Festival de Biarritz 98, France	科学技術振興事業団創造科学技術推進事業「微小流動プロジェクト」の研究成果紹介ビデオ
〃	河内啓二教授	TEPIA グランプリ	第8回 TEPIA ハイテク・ビデオ・コンクール	科学技術振興事業団創造科学技術推進事業「微小流動プロジェクト」の研究成果紹介ビデオ
〃	橋本和仁教授	注目発明賞	科学技術庁	水中化合物の分析方法
〃	橋本和仁教授	Innovations in Real Materials Award (実用材料発明賞)	国際材料科学会	Photocatalytic Titanium Dioxide Coatings Which Provide Self-Cleaning, Antifogging, Sterilizing or Deodorizing Properties
〃	橋本和仁教授	光化学協会賞	光化学協会	光電気化学を基礎とする機能材料の創製
〃	楠裕之教授	IEEE (米国電気電子学会) Fellow	米国電気電子学会	半導体ナノ構造・デバイスにおける量子効果の先駆的貢献
〃	児玉龍彦教授、浜窪隆雄助教授、和田洋一郎助手	ベルツ賞	日本ベレーリಂಗーインゲルハム株式会社	マクロファージのスカルベンジャー受容体と動脈硬化
〃	秋元肇教授	鳥津賞	鳥津科学技術振興財団	大気微量気体の高感度測定法の開発と地球大気化学観測研究
〃	渡部俊也客員教授	Innovations In Real Materials Award	Innovations in Materials Conference	Photocatalytic Titanium Dioxide Coatings Which Provide Self-Cleaning, Antifogging, Sterilizing or Deodorizing Properties
〃	南谷崇教授	ASIC デザイン・オブ・ザ・イヤーズ・グランプリ	半導体産業新聞	32ビット非同期式マイクロプロセッサ TITAC-2
〃	南谷崇教授	ASP-DAC'98 Best Paper Award	Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE)	On the CSC property of signal transition graph specifications for asynchronous circuit design
〃	南谷崇教授	ASP-DAC'98 Outstanding Design Award	Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE)	TITAC-2 : An Asynchronous 32-bit microprocessor
〃	野口範子助手	日本油化学会進歩賞	日本油化学会	脂質過酸化反応に対する酸化防止剤の作用に関する研究
〃	廣瀬明助教授	光科学技術研究振興財団研究表彰	光科学技術研究振興財団	コピーレント光ニューラルネットワークに関する研究

年	受賞・表彰者・グループ	賞の名称	授与組織等	貢献内容
1998	荒川泰彦教授	櫻井健二郎氏記念賞	光産業技術振興協会	光通信半導体レーザーの研究開発に多大な貢献
1999	須賀唯知教授	論文賞	社団法人エレクトロニクス実装学会	解体性の定量的評価の一考察
〃	橋本和仁教授	Best Presentation Award	Asian Conference	
〃	廣瀬通孝教授	論文賞	日本バーチャルリアリティ学会	モーションベースを利用した前庭感覚表現に関する基礎的研究
〃	荒巻俊也講師	有効賞（奨励論文賞）	日本下水道協会	
〃	香川豊教授	Professional Member	Academy of Ceramics	セラミックス材料分野における研究に対する功績
〃	南谷崇教授、今井雅（先端学際院生、南谷研）、他	LSI IP デザイン・アワードIP賞	日経BP社	32ビット非同期式マイクログロブプロセスサ TITAC-2
2000	入江仁士（院生、近藤豊研）	American Geophysical Union Outstanding Student Paper Award, by the Atmospheric Sciences Section	American Geophysical Union	
〃	浅沼浩之助教授	生体機能関連化学シンポジウム 講演賞	日本化学会 生体機能関連化学部会	アゾベンゼン導入DNAによる二重鎖形成の光制御機構の解析
〃	福島智助教授	ありのまま自立大賞	社会福祉法人 ありのまま舎	
〃	矢入健久助手、中須賀真一助教授（工学系研究科）、堀浩一教授	論文賞	人工知能学会	異種冗長なセンサー情報に基づく自律的状态抽象化法
〃	荒巻俊也講師	全国大会優秀講演者表彰	土木学会	GISを用いた下水および生活系廃棄物の収集処分システムのモデリング
〃	荒川泰彦教授	エレクトロニクスソサイエティ賞	電子情報通信学会	量子ドットレーザーの研究
2001	近藤豊教授	日本気象学会賞	日本気象学会	大気オゾンの収支に関わる窒素酸化物の挙動の研究
〃	近藤豊教授	NASA Group Achievement Award (SAGE III Ozone Loss and Validation Experiment Science Team)	NASA	
〃	福島智助教授	日本盲人会連合パイオニア賞	社会福祉法人 日本盲人会連合	
〃	中村宏助教授	坂井記念特別賞	情報処理学会	高性能プロセッサアーキテクチャに関する研究
2002	渡部俊也教授、隅蔵康一（政策研究大学院大学助教授、元先端研助手）	日経BP・BizTech図書賞	日経BP社	TL0とライセンストアソシエイト
〃	浅川智恵子（先端学際院生、伊福部研）	The Best Paper Award ACM ASSETS 2002	ACM SIGCAPH Conference Assistive Technologies Assets 2002	

年	受賞・表彰者・グループ	賞の名称	授与組織等	貢献内容
2002	葛谷明紀（院生、小宮山研）	高分子研究奨励賞	高分子学会	基質の局所的活性化を利用した新規RNA切断法の開発
〃	福島智助教	「アジア太平洋隣事者の十年」 最終年記念 障害者関係功勞 者 内閣総理大臣表彰	内閣総理大臣	
〃	近藤武夫特任助手	日本基礎心理学会第21回大会 優秀発表賞	日本基礎心理学会	三次元物体認識における空間的処理容量の個人差と視点依存性
〃	瀬田史彦助手	都市計画学会論文奨励賞	日本都市計画学会	地域格差是正政策とグローバル化に伴うその変容過程：日本・タイ・マ レーシアにおける比較研究
〃	滝浦晃基（院生、鎮西研）	ASAIO Fellowship	American Society for Artificial Internal Organs	A New Approach to Detection of the Cavitation on Mechanical Heart Valves
〃	橋本毅彦教授	標準化文献奨励賞	日本規格協会	
〃	南谷崇教授	IEEE Fellow	IEEE	
〃	南谷崇教授	電子情報通信学会フェロー 学術奨励賞	電子情報通信学会 日本ロボット学会	触覚情報の遠隔伝達を目的とした触覚センサの研究 設計パラメータの 決定及び評価
〃	神山和人（院生、南谷研）	Quantum Devices Award	International Symposium on Compound Semiconductors	For pioneering contributions to the development of quantum dot and quantum wire lasers
〃	荒川泰彦教授	日産科学賞	日産科学財団	量子ドット研究の創始とその物性解明および半導体レーザーへの応用
〃	館林潤（院生）、荒川泰彦教授	Best Paper Award	SPIE Photonics west 2002	Over-1.5-μm light emission from InAs quantum dots embedded in InGaAs strain-reducing layer grown by metalorganic chemical vapor deposition
2003	桑田育（院生、宮野研）	応用物理学会講演奨励賞	応用物理学会	金属ナノ粒子の共鳴光散乱のFDTDシミュレーションと得られる近似式
〃	田丸博晴助手	近接場光学賞	日本光学会 近接場光学研究グルー プ	微粒子によるプラズマ共鳴散乱のFDTD計算
〃	橋本和仁教授	電気化学会論文賞	電気化学会	触覚ディスプレイの設計を目的とした指先皮膚の機械特性の測定
〃	本間健（先端学際院生、伊福部 研）	ROBOMEC2002ベストプレゼ ンテーション表彰	日本機械学会	
〃	浅川智恵子（先端学際院生、伊 福部研）	日経ウーマン・オブ・ザ・イ ヤー2004 総合2位	日本経済新聞社	
〃	浅川智恵子（先端学際院生、伊 福部研）	大和市産業人表彰「大和市長 賞」	大和市	
〃	浅川智恵子（先端学際院生、伊 福部研）	The WITI Hall of Fame 2003	WITI: The Women in Technology International	
〃	小宮山真真教授	シクロデキストリン学会賞	シクロデキストリン学会	シクロデキストリンを用いた人工酵素の構築とその応用
〃	竹中充（研究員、中野研）	講演奨励賞	応用物理学会	方向性結合器双安定レーザー構造を有する半導体全光フリップ・フロップ の実現
〃	廣瀬通孝教授	情報化月間推進会議議長表彰	総務省	神祕の王朝 - マヤ文明展VR（バーチャル・リアリティ）シスター

年	受賞・表彰者・グループ	賞の名称	授与組織等	貢献内容
2003	福島智助教授	2003 Asian Heroes	米紙『TIME』	観測と行為の履歴データに基づく移動ロボットのトポロジカルマップ作成法 A temporal and spatial analysis of the cavitation on mechanical heart valves by observing faint light emission HPC向けオンチップメモリプロセッサアーキテクチャSCIMAのSMP化の検討と性能評価
〃	戸上真人(院生、町田研)、矢入健久講師、堀浩一教授	全国大会優秀論文賞	人工知能学会	
〃	大西隆教授	テレワーク推進賞個人賞	日本テレワーク協会	
〃	滝浦晃基(院生、鎮西研)	First place in ASAIO Paul Malchesky Student Abstract Award Competition	American Society for Artificial Internal Organs	
〃	高橋睦史(筑波大学)、近藤正章(先端学際院生、南谷研)、中村宏助教授、他	ハイパフォーマンシコンピュテーティングと計算科学シンポジウム最優秀論文賞	情報処理学会	
2004	田丸博晴助手	講演奨励賞	応用物理学会	金属開口における透過電磁波の偏光特性のFDTD計算(III) セルフクリーニング建材・放熱部材等の光触媒利用技術の産業化
〃	橋本和仁教授、渡部俊也教授、藤嶋昭(東京大学名誉教授、元先端学際工学専攻教授)	産学官連携功労者表彰 総理大臣賞	産学官連携推進会議(主催:内閣府・総務省・文部科学省・経済産業省・日本経済団体連合会・日本学術会議)	
〃	大崎壽特任教授、金井信宏(院生)、福永康子(院生)、鈴木正志(大崎研実験補佐員)、渡部俊也教授、橋本和仁教授	5th International Conference on Coating on Glass Best Poster Award	Conference Committee of ICCG	
〃	小林友(院生、宮山研)	ポスター優秀賞	日本セラミックス協会秋季シンポジウム	
〃	後藤崇(院生、宮山研)	ポスター優秀賞	日本セラミックス協会秋季シンポジウム	
〃	岡田朋美(院生、宮山研)	研究奨励賞	日本セラミックス協会電子材料部会	アナターゼ形酸化チタンメソ多孔体の電気化学特性 Ba系ビスマス交代層構造強誘電体における巨大分極特性 チタン酸ビスマスの強誘電相転移と電子構造 IT(情報技術)の分野でバリエーションの実現に貢献
〃	小林友(院生、宮山研)	研究奨励賞	日本セラミックス協会電子材料部会	
〃	後藤崇(院生、宮山研)	講演奨励賞	応用物理学会	
〃	浅川智恵子(共同研究者、伊福部研)	日本イノベーション大賞優秀賞	日経BP社	
〃	浅川智恵子(先端学際院生、伊福部研)	功労賞	日本女性科学者の会	
〃	チャイヤシット・カントウーンキッテイタル(院生、中野研)	講演奨励賞	応用物理学会	MOVPE成長AIN/GaN多重量子井戸における155_mサブバンド間吸収の観測 Fabrication of a TE mode InGaAsP active waveguide optical isolator based on the nonreciprocal loss shift スケラブルVRシステムを用いた教育用コンテンツの試作—マヤ文明コバン遺跡における歴史学習— [シミュレーションの思想]
〃	清水大雅助手	リボン賞	米国材料研究学会	
〃	廣瀬通孝教授	論文賞	日本バーチャルリアリティ学会	
〃	廣瀬通孝教授	大川出版賞	財団法人 大川情報通信基金	

年	受賞・表彰者・グループ	賞の名称	授与組織等	貢献内容
2004	廣瀬通孝教授	SI2004 ベストセッション講演賞	計測自動制御学会	展示空間を利用した実世界ロールプレイゲーム
〃	近藤武夫特任助手	第23回大会優秀発表賞	日本基礎心理学会	嗅覚刺激強度と先行手がかりの有無が眼高前頭領域の血行動態に与える影響 - 近赤外分光法を用いた検討 -
〃	藤巻遼平 (院生、町田研)	ISTS2004 日本航宇宙学会会長賞	ISTS (International Symposium on Space Technology and Science)	Localization of Intra-vehicular Flying Robot Using Particle Filter Algorithm
〃	西塚要 (院生、町田研)	ISTS2004 宮崎賞	ISTS (International Symposium on Space Technology and Science)	Map Construction from Inaccurate Distance Information on Planetary Surface Using Multidimensional Scaling
〃	古館健 (フリーランス)、石田大祐 (フリーランス)、城一裕 (先端学際院生、中小路研)、野口瑞希 (フリーランス)	ARS Electronica Honorary Mention Digital Musics	Ars Electronica Center Linz	The SINE WAVE ORCHESTRA static
〃	三井美絵 (先端学際院生、鎮西研)	Bioengineering Fellowship Awards	American Society for Artificial Internal Organs	Intra-Fascicular Nerve Electrode Aiming at the New Control Method of the Total Artificial Heart Using Nerve Signals
〃	斎藤逸郎助手	若手研究者優秀発表賞	日本定常流ポンプ研究会	波動型補助人工心臓の動物への埋込実験
〃	今井雅助手、Metehan Ozcan (先端学際院生)、南谷崇教授	論文賞	情報処理学会	SDI モデルに基づく局所同期型非同期式 VLSI 設計方式
〃	荒川泰彦教授	William Streifer Award	IEEE (米国電気学会)	Pioneering achievement on quantum effects in semiconductor lasers and proposal of quantum dot lasers
〃	荒川泰彦教授	江崎玲於奈賞	茨城科学技術振興財団	半導体ナノエレクトロニクス、特に量子ドット・量子細線素子研究における先駆的研究
2005	山田和明特任助手	論文賞	ファナック FFA ロボット財団	強化学習による自律型アームロボットの協調行動獲得
〃	安田浩教授	丹羽高柳賞功績賞	映像情報メディア学会	映像フレイム間暗号化方式の先導的研究をおこないさらに国際標準化機構 (ISO) 担当ワーキンググループ議長として MPEG 標準規格のとりまとめに成功したこと等に対する功績
〃	近藤勝義特任助教授	Poster of Merit	2005 International Conference on Powder Metallurgy & Particulate Materials (粉体粉末国際会議2005)	RCP プロセスによるマグネシウム合金のナノ微細結晶化プロセス
〃	近藤勝義特任助教授	研究進歩賞	粉体粉末冶金協会	極表面観察によるアルミニウム合金粉末の表面酸化膜の分解挙動解析とその応用
〃	近藤勝義特任助教授	日本マグネシウム協会賞 (奨励賞)	日本マグネシウム協会	マグネシウム合金の高機能化に関する実用化研究
〃	近藤正章特任助手、中村宏助教授	最優秀論文賞	SACSI2005 (先進的計算基盤システムシンポジウム)	ビット分割構成によるレジスタファイルのサイズの最適化およびポート削減手法
〃	橋本和仁教授、渡部俊也教授、藤嶋昭 (東京大学名誉教授、元先端学際工学専攻教授)	九州地方発明表彰 特許庁長官奨励賞	社団法人発明協会	光触媒性超親水技術
〃	吉田直哉助手	年会優秀ポスター発表賞	日本セラミックス協会	層状構造酸化物の強誘電・イオン伝導機能設計に関する研究
〃	宮山勝教授	学術賞	日本セラミックス協会	

年	受賞・表彰者・グループ	賞の名称	授与組織等	貢献内容
2005	村田紘一郎 (院生、宮山研)	ポスター優秀賞	日本セラミックス協会秋季シンポジウム	Bi_2WO_6 系単結晶におけるリーク電流と分極特性
〃	片山真一 (院生、宮山研)	研究奨励賞	日本セラミックス協会電子材料部会	走査型プローブ顕微鏡による $\text{Bi}_4\text{Ti}_3\text{O}_{12}$ 系単結晶のドメイン観察
〃	木崎陽一 (院生、宮山研)	講演奨励賞	日本MRS学術シンポジウム	層状欠陥導入 $\text{Bi}_{0.5}\text{Na}_{0.5}\text{TiO}_3$ セラミックスの強誘電・圧電特性評価
〃	井野秀一助教授、黒木速人特任助手、中野聡子 (東京福祉大、元先端研特任助手)、堀耕太郎 (株式会社ピー・ユー・ジー)、伊福部達教授	SI2005 ベストセッション講演賞	計測自動制御学会	聴覚障害者の情報保障を目的とした音声同時字幕システムに関する研究
〃	浅川智恵子 (共同研究者、伊福部研)	Web クリエーション・アワード Web 人賞	日本広告主協会	「aDesigner」等アクセシビリティ関連研究
〃	劉明哲 (院生、小宮山研)	第85 春年会「学生講演賞」	日本化学会	アゾベンゼン導入 Tf_2 プロモーターを用いた遺伝子発現の光制御 (1) 転写反応の高効率な光制御と、その機構解析
〃	中野義昭教授	フェロー称号	電子情報通信学会	光ネットワークに向けた半導体集積光デバイス の先導的研究
〃	竹中充 (研究員、中野研)	学術奨励賞	電子情報通信学会	多モード干渉カブラ型双安定半導体レーザーを用いた全光フリップ・フリップ動作
〃	清水大雅助手	JJAP 論文奨励賞	応用物理学会	First demonstration of TE mode nonreciprocal propagation in an InGaAsP/InP active waveguide for an integratable optical isolator
〃	廣瀬通孝教授	Laval Virtual Trophies 2005, Science and Education 賞	EU-JP Forum Laval Virtual 2005	Application of Behavioral Interface for Museum Guide
〃	廣瀬通孝教授	論文賞	日本バーチャルリアリティ学会	バーバル・ノンバーバル情報を利用した視聴覚障害者の歩行支援のためのウェアラブル触覚インタフェースの研究
〃	廣瀬通孝教授	論文賞	日本バーチャルリアリティ学会	ウェアラブル嗅覚ディスプレイによる匂い場の生成・提示
〃	廣瀬通孝教授	ヒューマンインタフェースシンポジウム2005 優秀プレゼンテーション賞受賞	ヒューマンインタフェース学会	公共空間におけるメデイアアートのためのSuicaを利用したインタラクシヨンの研究
〃	藤田亮恭 (院生、鈴木研)	造船学会賞	造船学会	産業用 X 線 CT データの可視化のためのモデリングに関する研究
〃	福重真一 (院生、鈴木研)、鈴木宏正教授	山下記念研究賞	情報処理学会	ポリゴン間のブライオリティ決定のための円環型データ構造
〃	山田和明特任助手、大倉和博 (神戸大学助教授)、上田完次 (人工物工学研究センター教授)	ファナック F A ロボット財団論文賞	ファナック F A ロボット財団	強化学習による自律型アームロボットの協調行動獲得
〃	菅正史助手	論文奨励賞	日本都市計画学会	都市計画の分散化とサステイナブル都市政策に関する一連の研究
〃	香川豊教授	Fellow of The American Ceramic Society	The American Ceramic Society	
〃	芹澤武助教授	科学奨励賞	日本化学会コロイドおよび界面化学部会	ナノ構造制御された高分子超薄膜の構築と機能発現

年	受賞・表彰者・グループ	賞の名称	授与組織等	貢献内容
2005	鈴木隆文（学内共同研究員、鎮西研）	荻野賞	日本生体医工学会	流路を備えた多機能神経電極による神経系薬剤応答計測法の開発
〃	伊藤憲二特任助手	DHS Prize for Young Scholars（優秀博士論文賞）	International Union of the History and Philosophy of Science/ Division of History of Science（国際科学史科学哲学連合科学史部門）	
〃	後藤晃教授	知財功労賞 経済産業大臣表彰（産業財産権制度関係功労者）	特許庁	
〃	近藤正章特任助手、中村宏助教授	先進的計算基盤システムシンポジウム最優秀論文賞	情報処理学会	ビット分割構成によるレジスタファイルのサイズおよびポート数削減手法
〃	神山和人（院生、南谷研）	学術奨励賞	計測自動制御学会	光学式三次元触覚センサの開発及びその応用
〃	岩本敏講師、館林潤（院生）、西岡政雄助手（生産研）、中岡俊裕助手（生産研）、荒川泰彦教授	Best Paper Award	International Conference on Solid State Devices	Observation of 1.5um light emission from InAs quantum dots in photonic crystal microcavity
〃	荒川泰彦教授	フェロー称号	電子情報通信学会	量子効果光デバイスの先駆的研究
2006	橋本和仁教授、渡部俊也教授	山崎貞一賞（材料分野）	材料科学技術振興財団	太陽光を利用する光触媒環境材料の開発
〃	荒川泰彦教授	Technology Innovation Awards 2006 優秀賞（半導体部門）	Wall Street Journal	量子ドットレーザー開発に対する貢献
〃	荒川泰彦教授、塚本史郎特任助教（生産研）	論文賞	応用物理学会	低次元量子構造作製技術とデバイス応用の現状と展望—量子ドットを中心に—
〃	荒川泰彦教授	Fellow 称号	IEEE（米国電気学会）	For pioneering contributions to the development of quantum dot lasers
〃	青木輝勝講師	優秀論文賞	情報処理学会GN研究会	新映像製作システムDMDとその制作工程
〃	中川清特任研究員	Kajiwar Award（梶原賞）	Society for Hypertension Related Disease Model Research（高血圧関連疾患モデル学会）	A Novel Hypertension Pathway: Salt-sensitive Hypertension is Associated with Dysfunctional Cyp4a10 Gene and Kidney Epithelial Sodium Channel
〃	藤嶋昭（財団法人神奈川科学技術アカデミー理事長、東京大学特別荣誉教授、元先端学際工学専攻教授）、橋本和仁教授、渡部俊也教授、他	恩賜発明賞	社団法人発明協会	光触媒性 超親水技術の発明
〃	野口祐二講師	池田記念会・論文賞	応用物理学会 池田記念会	Impact of Defect Control on the Polarization Properties in $\text{Bi}_4\text{Ti}_3\text{O}_{12}$ Ferroelectric Single Crystals
〃	木崎陽一（院生、宮山研）	ボスター最優秀賞	日本セラミックス協会秋季シンポジウム	$\text{K}_{0.5}\text{Na}_{0.5}\text{NbO}_3$ 単結晶の育成と強誘電・圧電特性評価
〃	玉田稔（院生、宮山研）	講演奨励賞	応用物理学会	欠陥制御によるチタン酸鉛単結晶の高強誘電機能化
〃	中山哲志（院生、宮山研）	研究奨励賞	日本セラミックス協会電子材料部会	電気泳動法によるSmドーープ CeO_2 電解質膜の作製と燃料電池特性

年	受賞・表彰者・グループ	賞の名称	授与組織等	貢献内容
2006	北中佑樹 (院生、宮山研)	研究奨励賞	日本セラミックス協会電子材料部会	チタン酸ビスマス単結晶におけるドメインダイナミクス
〃	玉田稔 (院生、宮山研)	研究奨励賞	日本セラミックス協会電子材料部会	欠陥制御によるチタン酸鉛単結晶の高強誘電機能化
〃	中島佐和子 (先端学際院生、伊福部研)、井野秀一助教授、伊福部達教授	生体医工学シンポジウムベストリサーチアワード	日本生体医工学会	複合現実感の車両応用時の生体影響に関する定量的評価
〃	橋場参生 (北海道立工業試験場)、須貝保徳 ((株)電制)、泉隆 (北海道東海大学助教授)、井野秀一助教授、伊福部達教授	研究会賞	ヒューマンインタフェース学会	喉頭摘出者の発声を支援するウェアラブル人工喉頭の開発
〃	竹川暢之助教授	山本・正野論文賞	日本気象学会	Removal of NOx and NOy in Asian outflow plumes: Aircraft measurements over the western Pacific in January 2002
〃	岩崎聡 (交流研究員、酒井研)	アディボサイエンス研究会若手優秀ポスター賞	アディボサイエンス研究会	
〃	渡邊克巳助教授	国際賞奨励賞	日本心理学会	標的色に対する構えと随伴性注意補足
〃	有賀敦紀 (院生、渡邊克巳研)	優秀発表賞	日本基礎心理学会	次世代光通信システムのための光ファイバ型全光信号処理デバイスに関する研究
〃	種村拓夫助手 (電子工学専攻、中野研)	若手研究者賞	日本エリクソン	超臨界二酸化炭素を用いた有機薄膜トランジスタ作製法
〃	出浦桃子 (院生、中野研)	電気学術女性活動奨励賞	電気学会	
〃	福島智助教授	鳥居賞	社会福祉法人 京都ライトハウス	カーネル特徴空間における正準角を利用した宇宙機異常検知
〃	藤巻遼平 (院生、町田研)、矢入健久講師、町田和雄教授	全国大会優秀賞	人工知能学会	
〃	藤巻遼平 (院生、町田研)	工学系研究科長賞 (金賞)	東京大学工学系研究科	知識とデータ学習の融合アプローチによる宇宙機異常診断法
〃	河原吉伸 (院生、町田研)	宇宙科学技術連合講演会若手奨励賞	日本航空宇宙学会	工学と応用科学分野で顕著な業績や貢献のあったコロラド大学 (米) 卒業生/関係者の表彰
〃	中小路久美代特任教授	Distinguished Engineering Alumni Award	College of Engineering & Applied Science, University of Colorado, Boulder	Java開発者のオンデマンド・ラーニングを支援するソシオテクニカル環境
〃	葉雲文 (株式会社SRA先端技術研究所主任研究員)、山本恭裕特任助教授	SEC ジャーナル優秀論文賞	(独) 情報処理推進機構 ソフトウェア・エンジニアリング・センター	
〃	光宗倫彦 (先端学際院生、鎮西研)	the 2nd Poster-Award	The European Society for Artificial Organs (ヨーロッパ人工臓器学会)	Estimation of the Effect of Clearances on the Performance of the Undulation Pump with CFD analysis
2007	青木輝勝講師	文部科学大臣表彰 科学技術賞 (若手科学者賞)	文部科学省	シナリオ入力自動映像創生システム DMD の研究
〃	芹澤武助教授	文部科学大臣表彰 科学技術賞 (若手科学者賞)	文部科学省	高分子超薄膜のナノ構造制御と新機能創製の研究
〃	後藤晃元教授 (公正取引委員会委員、先端研ボードメンバー)	文部科学大臣表彰 科学技術賞 (科学技術振興部門)	文部科学省	イノベーション プロセスの経済分析による科学技術の振興

年	受賞・表彰者・グループ	賞の名称	授与組織等	貢献内容
2007	中島佐和子（先端学際院生、伊福部研）	学術奨励賞	日本バーチャリアリティ学会	MR環境下における時空間ズレの生体影響とその軽減策の提案
〃	中野義昭教授	市村学術賞	新技術開発財団	デジタルフォトリソのための半導体集積光デバイス・回路の開発
〃	雨宮智宏（院生、中野研）	学生優秀研究賞	電子情報通信学会	強磁性 MnAs による非相反損失にもとづく TM モード導波路型光アイソレータ
〃	荒川泰彦教授	藤原賞	藤原科学財団	量子ドット半導体レーザの概念の創出とその実現に関する先駆的研究
〃	荒川泰彦教授、中野義昭教授、菅原充（株式会社 QD レーザ代表取締役社長）	産学官連携功労者表彰 内閣総理大臣賞	内閣府	フォトリソ用ネットワーク技術の研究開発及び大学発カーブアウト型ベンチャーの設立
〃	荒川泰彦教授	フェロー称号	日本応用物理学会	量子ドットによる新光素子概念の創出とその実現に関する貢献
〃	中野義昭教授	設立30周年記念表彰 標準化功労賞	社団法人日本電子回路工業会	
〃	中野義昭教授	エレクトロニクスソサイエティ賞	電子情報通信学会	半導体集積光デバイスの先駆的・独創的研究
〃	池田佳路（院生、南谷研）	山下記念研究賞	情報処理学会	電力制約下での高性能計算機クラスタ構成手法
〃	高橋宏知講師	船井情報科学奨励賞	船井情報科学振興財団	聴覚と音声のリハビリテーションに関する先導的研究
〃	鈴木宏正教授	The Most Interesting Reading 賞	日本設計工学会	産業用 X 線 CT スキャナを用いた形状モデリング
〃	三谷純（筑波大学講師）、鈴木宏正教授	論文賞	日本図学	集約法による多面体の展開図生成手法
〃	三谷純（筑波大学講師）、鈴木宏正教授	CGAC2007（CG アニメーションカンファレンス）、国際 CG 論文大賞優秀論文賞	芸術科学会	Making Papercraft Toys from Meshes using Strip-based Approximate Unfolding
〃	須貝保徳（株式会社電制）、伊福部達（東京大学）、橋場参生（北海道立工業試験場）、山口悦範（株式会社電制）	ものづくり日本大賞	経済産業省	抑制を制御できる電気式人工喉頭（ユアトーン）の商品化

第6節 図書室

先端研の図書室は、書籍というものの性質上、航空研以来の歴史を持っている。本節では、その歴史と活動の現状について述べていく¹⁶⁾。

1. 歴史

序章で述べたように、先端研の敷地の来歴を遡ると、戦前には東京帝国大学航空研究所、通称航空研が設置されていた。この中に設置された図書部が、現在の先端研図書室のルーツとなる。先端研図書室には現在でも航空研時代から受け継がれている図書が多数存在しているが、その中には日本国内では先端研図書室にしかないという貴重書もあり、時折他大学から貸出の請求がある。

航空研図書部は設置後、敷地内に建つ研究所の変遷と共に歩んできた。その歴史の中で、図書部にとって最も大きな出来事は、1981年に宇宙航空研究所が文部省直轄の宇宙科学研究所と東京大学工学部附属境界領域研究施設に分割されたことである。この分割は研究所全体に混乱を生んだが、図書室もその影響を免れることはできなかった。

分割された宇宙科学研究所が相模原市淵野辺へ移転するまでの間、境界研と宇科研は駒場Ⅱキャンパスに同居することとなっていた。当然、図書室についても従来通り同じ図書室を共用していたわけである。しかし、組織が分割され事務組織も別々に整備された結果、図書室にも図書事務室が別々に存在するという奇妙な状態におかれることとなる。

そして、宇宙科学研究所が実際に相模原市へ移転する際に、宇宙関係の蔵書は宇宙科学研究所へ、それ以外は境界研へという振り分け基準のもと図書が整理分割されることとなった。しかし、両者共に関係のあるジャーナル等は両者間で奪い合う状況となり、激しい交渉が行われた。この件は、最終的に境界研の上部組織である工学部の図書担当者が仲裁に入り、調停が行われた。

資料2-6-1 先端研図書室年表

1988年	先端研図書室が2号館で開室（6月1日）。
1989年	境界研の図書が工学部より移管される。
1991年	宇宙科学研究所に66タイトル（和雑誌10タイトル101冊 洋雑誌56タイトル235冊）が移管される。
1993年	大須賀節雄前センター長によって表札が揮毫される。
1996年	柳田博明元センター長が退官の際、100万円の基金を図書購入費として寄付。柳田・氏平基金の始まり。
1999年	新4号館に移転する。
2004年	電子ジャーナルの利用開始。
2005年	柏図書館に703タイトル（和雑誌120タイトル1297冊、洋雑誌583タイトル8903冊）が移管される。
2006年	17844冊（和雑誌60タイトル2125冊、洋雑誌499タイトル15719冊）を処分する。
2006年	図書係長職が廃止になる。

16) 本節の内容は、境界研から先端研の初期にかけて係長として図書室に勤務し、2006年度末まで非常勤職員として先端研図書室に勤務されていた秋山紀氏へのインタビューに基づいている。

資料2-6-2 先端研図書室の規模

所属 年度	境界研		先端研							
	1986	1987	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994
蔵書冊数										
和図書	17,967	17,339	2,184	2,351	14,000	14,667	15,941	16,214	16,884	17,061
洋図書	72,327	69,702	7,170	8,296	46,208	47,235	49,114	49,890	50,934	51,490
合 計	90,294	87,041	9,354	10,647	60,208	61,902	65,055	66,104	67,818	68,551
所蔵雑誌タイトル数										
和雑誌	375	375	35	45	262	263	279	279	279	279
外国雑誌	1,504	1,500	287	162	1,252	1,264	1,270	1,272	1,274	1,279
合 計	1,879	1,875	322	207	1,514	1,527	1,549	1,551	1,553	1,558
旧分類図書冊数										
和図書										
洋図書										
合 計										
図書室予算 (資料購入費)(千円)										
図書	1,206	1,047	7,849	543	603	489	576	848	582	518
雑誌	8,991	9,043	2,069	9,066	9,470	10,321	11,624	12,042	12,657	12,304
新聞、その他	—	799	—	260	324	336	343	365	369	389
電子ジャーナル										
図書室員数 (括弧内、アルバイト数)	3(0)	3(1)	3(1)	4(2)	4(2)	4(2)	4(2)	4(2)	4(2)	4(2)

所属 年度	先端研										
	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
蔵書冊数											
和図書	17,394	17,470	18,527	18,700	18,552	18,934	18,758	18,874	19,170	19,360	19,388
洋図書	52,025	52,731	53,662	53,992	54,004	54,371	54,427	54,730	54,993	55,125	55,148
合 計	69,419	70,201	72,189	72,692	72,556	73,305	73,185	73,604	74,163	74,485	74,536
所蔵雑誌タイトル数											
和雑誌	279	267	267	267	267	267	267	267	267	267	125
外国雑誌	1,280	1,272	1,272	1,272	1,272	1,272	1,272	1,272	1,272	1,272	457
合 計	1,559	1,539	1,539	1,539	1,539	1,539	1,539	1,539	1,539	1,539	582
旧分類図書冊数											
和図書											4,381
洋図書											5,694
合 計											10,075
図書室予算 (資料購入費)(千円)											
図書	375	592	498	955	1,743	2,029	2,182	1,970	2,537	1,858	622
雑誌	11,419	1,001	776	370	404	540	343	331	1,321	740	986
新聞、その他	389	390	404	404	404	404	421				
電子ジャーナル										911	2,677
図書室員数 (括弧内、アルバイト数)	3(1)	3(1)	3(1)	3(1)	3(1)	3(1)	3(1)	3(1)	4(2)	4(2)	4(2)

※ 「旧分類図書冊数」は2005年10月12日に調べられたリストより作成されている。ただし、和洋の別はあいまいなものが含まれている。

一方で、航空研究所時代の書物の一部は、宇宙科学研究所からも境界研からも手を付けられない状態のまま14号館地下書庫に置かれ、ここの整理が進むと、これらの図書は13号館の地下書庫に移動し、残置されることとなる。しかしそれらの図書には、本節冒頭で述べたような先端研に伝わる貴重書が含まれていた¹⁷⁾。その中には「Napierの対数表」の1624年版¹⁸⁾という貴重な資料も含まれていた。

このように航空研伝来の図書を受け継いできた境界研であったが、境界研廃止に伴ってそれらの図書は先端研にそのまま受け継がれることとなった。ただし、先端研の図書室が開室となったのは次年度の1988年6月1日であった。このとき、先端研の図書室は2号館に設置された。まだ宇科研と境界研の資料配分が協議中の段階であり、工学部を通じて境界研の所蔵図書が先端研図書室に移管されたのは1989年度になってからであった（資料2-6-2参照）。

しかし、この図書室は多くの問題を抱えていた。図書室が割り当てられた部屋は元々実験室であったため、レイアウトが特殊で入り口も見つけにくいという状態であった。1993年春にこの対策として、大須賀前センター長によって、表札が揮毫された（巻末の年表参照）¹⁹⁾。また、当時は、13号館、14号館、16号館など、各所に書庫が設置されており資料が分散してしまっていた²⁰⁾。そこで、1999年に新4号館が完成したことを受け、図書室を新4号館内に移転することとし、同時に、点在していた書庫を整理することとなった。

2. サービス

近年は図書室の時間外利用も開始され、2004年以降は電子ジャーナルが利用可能となるなど、利便性の向上が図られている先端研の図書室であるが、一方でさまざまな苦勞もあった。後掲の表を参照しながら、先端研の図書室の状況と特徴を把握してみたい。

まず、先端研の図書室は蔵書を揃えるために苦勞を強いられてきた。先端研は、学際性をモットーとしているため、カバーしなければならない研究分野が非常に広く、これらの広い範囲を網羅しようとする予算が慢性的に不足することとなる。同時に、教員の入れ替わりが激しいため、研究分野の変更も頻度が高い。それゆえ、学術書の蓄積は期待できないのである。それぞれの研究者は、自分の専門分野の雑誌が揃っていることを期待していたが、限られた予算の中では思うように購入ができなかったという苦勞話も伝わっている²¹⁾。

現在では電子ジャーナルが利用可能になったことにより、雑誌については状況がやや改善していると言ってよいだろう。これにより、2005年には紙媒体の雑誌の取り扱い数を大幅に減らすこととなった。

このような図書室の状況は、ある種の悪循環を招いてきたと言ってよいかもしれない。すなわち、図書室が研究分野に合わせた資料を十分に揃えるという機能を果たせなかったゆえに、研究室単位で

17) 13号館地下書庫に残置された古書や雑誌は、2005年に書庫を研究室に転用する際に、再び移動することとなる。図書の一部は新4号館の図書室書庫に移され、雑誌の一部は他の研究機関に移管され、残りは処分されることとなった（2005年度第16回教授総会 議事録（案））。

18) Napierの他の対数表同様、没後に出版されたもので、世界最初の常用対数表として有名なもの（『先端研ニュース』第4号、p.14参照）。

19) 先端研ニュース第12号の記述による。

20) 1988年6月27日教授会配布資料による。

21) 岸輝雄元センター長へのインタビュー記録による。

資料 2-6-3 先端研図書館の利用状況

所属 年度	境界研 1986	先端研 1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
窓口での貸出 (学内者)	1,553	-	1,088	1,114	781	809	714	705	1,795	736	528	389	249	343	564	521	521	820	639	642
相互協力業務																				
貸出 (冊) ※1※2																				
学内		-	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	73	96	112
他大学	0	-	10	40	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	21	9	10
大学分合計		-	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	76	94	105	122
その他の国内機関	0	-	8	2	0	40 (概数)	29 (概数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	1	0
海外の機関	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
借受 (冊) ※1																				
学内	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	622	431	506
他大学	-	-	-	-	-	3	5	4	4	18	16	16	52	92	61	112	-	259	252	362
大学分合計	0	-	109※3 (概数)	129	147	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	525	891	683	868
その他の国内機関	0	-	1	0	0	17 (概数)	20 (概数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	24	40	31
海外の機関	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	3
複写受付 (件) ※4																				
学内	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	133	131	79	86	108	-	87	92	56
他大学	-	-	-	-	-	-	24	54	68	144	126	79	43	67	64	54	-	110	42	44
大学分合計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	212	174	146	150	162	196	197	134	100
その他の国内機関	0	-	0	0	106	76	63	60	63	86	88	56	42	67	6	0	0	9	1	0
海外の機関	0	-	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
複写依頼 (件) ※4																				
学内	-	-	-	-	-	-	1,075	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,037	816	899
他大学	-	-	19	204	134	327	349	493	340	461	529	684	970	868	619	518	-	506	396	472
大学分合計	63	-	-	-	-	-	1,424	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,278	1,543	1,212	1,371
その他の国内機関	52	-	37	69	112	119	55	87	122	85	49	69	108	43	49	9	16	59	61	36
海外の機関	0	-	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	19	20	15

※1：1986～1993年は、相互協力業務（貸出・借受ともに）を実施していないという記録がある。また、2002年以降は、学内他図書館とのやりとりの件数も含んでいる。

※2：1994～2001年は、規則により貸出はおこなっていないかった。

※3：1988～1990年は学内他図書館からの借受が入っているのではないかと推測される。

※4：1988～1991年は、相互協力業務（受付・依頼ともに）を実施していないという記録がある

「窓口での貸出（学内者）」は、先端研の窓口で貸し出された数で、先端研の研究者が借りた数と、先端研のメンバーではない東京大学の学内者が先端研図書館まで来て借りた数を合算した数である。

「貸出（冊）」は、先端研図書館の書籍を他の図書館を通して貸し出した冊数である。

「借受（冊）」の項目は、他の図書館の蔵書を先端研図書館が借りて貸し出した冊数である。

「複写受付（件）」は、先端研の図書に対して複写を依頼された件数である。

「その他の国内機関」には、NDL（国立国会図書館）、ISAS（宇宙科学研究所）、JICST（科学技術振興機構）等が含まれている。

「海外の機関」には、BL（British Library）等がある。

の図書の購入につながり、ひいては図書室利用者の減少を導いていると考えられるのである。窓口貸し出し数をみると、1996年まで、利用者数が減少を続けていることが確認できる（資料2-6-3）。一方、知的財産権大部門や旧先端経済工学研究センターでは独自の資金により、図書室を開設、運営していた。

ただし、近年貸し出し数はやや回復しつつある。回復しつつある原因としては、1999年に新しい建物に移ったことが挙げられる。また、目録の遡及入力の結果が表れてきたことも理由として挙げられる。2002～2003年度中に、全蔵書の目録をオンラインで検索可能とするため、未入力であった図書についても全ての電算入力を完成させたのである。

また、図書資料の充実だけでなく、サービス向上の努力が続けられている。たとえば、他の部局図書館の資料を請求する窓口として機能することで、研究者のニーズに対応していくことが試みられている。資料2-6-3によれば2005年度では、窓口貸出642件に対し、他部局図書館からの借受868件、複写依頼1,371件となっている。

このように、状況に対応しながらサービスを充実させてきた先端研図書室であるが、未だ解決していない重要な問題が存在する。それは、先端研自身の活動をアーカイブする機能を果たせていないという問題である。先端研に所属する研究者の著書や報告書が集まる明示的な仕組みが作られていないため、そういった資料の収集が円滑に進んでいないのである。かつては、先端研紀要の作成に合わせ、報告書等が集まるようにシステムが作られており、実際それらの報告書等は今でも先端研図書室の書庫に保管されている。しかし、特に2000年以降、先端研の活動状況を明らかにするような資料は、ほとんど図書室には収集されていない状況である。

また、2006年の経営組織改革によって、図書係長職が廃止され、図書係は係員1人の図書室として、総務係長が同室の運営をフォローする形となるという大きな改革が行われた（第1章第2節参照）。これは、図書室をめぐる状況や図書室に対する考え方が、大きく変わってきたということの、一つの結果であろう。

3. 柳田・氏平基金

1996年に柳田博明元センター長より100万円、1997年に氏平祐輔元教授より50万円を、それぞれ退官時に図書費として寄付を受けた基金（通称：柳田基金）があった。この基金では、先端研所属教員へのアンケート等を行い、なるべく幅広い研究者が利用するような図書や、個人ではなかなか購入しづらい高額な辞典類などを中心として購入している。その結果、基金による購入図書は、科学技術史、経済、情報科学、物理、化学、医学、気象、建築、美術など多岐にわたっている。特徴的なものとしては、TOEFLの問題集も購入しており、海外での成果の発表や留学などに目を向けている様子がうかがえる。

購入したもののうち代表的なものは、日本科学技術史体系、日本の科学技術、化学大辞典、寺田寅彦全集、プロジェクトX、新生化学実験講座、生物化学実験法、シリーズ分子生物学の進歩、気象学のプロムナード、新生理科学体系、Handbook on semiconductors、新体系土木工学、新建築学体系などである。

柳田・氏平基金による書籍の購入は、2006年度末に残額約30万円によって辞典・事典類を購入したことで終了している。



大越孝敬元センター長の最終講義
初期は定年の近い教授が多かったため、自然と流動性は高まった



外国人初の交付金教員、ロバート・ケネラー教授
法学と医学2つの博士号を持つ